

神川彦松著作目録

松田 義男 編
改訂 2024年 5月 22日
2006年 7月 17日

凡例

- * 「1. 著書」、「2. 共著」、「3. 論文等(新聞・雑誌掲載)」、「4. 国会委員会議事録」に大別し、それぞれ年次順に配列した。
- * 未確認の著作については、冒頭に*を付した。
- * 連載は、原則として初回掲載に一括した。連載内容の細目は、参考までに[]に記した。
- * 雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- * 新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- * 掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1・1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。
- * 座談会・対談等については、出席者などを[]に注記した。
- * 収録書は[]に示した。収録書のうち、『神川彦松全集』全10巻(勁草書房、1966-1972年)は、『全集』と略記した。
- * 収録時に改題されたものについては改題名を示したが、漢字・かな表記上の単純な改題は無視した(如何→いかん、其の→その、独・独逸→ドイツ、英国→イギリス、亜拉比亜→アラビヤ、希臘→ギリシャ、伊太利→イタリア、露国・露西亜→ロシア、波斯→ペルシャ、羅馬尼→ルーマニア、奥国→オーストリア、土耳其→トルコ、巴里→パリ、巴爾幹→バルカン、白耳義→ベルギー、莫斯科→モスクワ、勃牙利→ブルガリア、奥洪国→オーストリア・ハンガリ、小露→ウクライナ、高加索→コーカサス、普魯西→プロシヤ)。
- * その他、編者の注記は適宜[]で示した。

本著作目録作成に際しては、「著作年譜」(植田捷雄編『近代日本外交史の研究 神川先生還暦記念』有斐閣、1956年)、「戦後の著作年譜」『日本外交の再出発』(鹿島研究所、1960年)、「著作年譜」『日本政治の再出発』(鹿島研究所、1961年)、『全集』第7巻～第10巻収録著作の初出情報を参照したほか、アジア経済研究所図書館、関西大学総合図書館、高野山大学図書館、国立国会図書館、金光図書館、昭和館、玉川大学教育学術情報図書館、筑波大学附属図書館、東京都立中央図書館、東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史科センター(明治新聞雑誌文庫)、同教育学研究科・教育学部図書室、日本新聞博物館新聞ライブラリー、北海道大学附属図書館、明治大学中央図書館、早稲田大学中央図書館・同現代政治経済研究所より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表しま山口県立山口図書館、す。

1. 著書

- 『外交史』文信社(非売品)<大正十三年度東大講義>1924年4月1日
- 『世界外交の大勢と我国の地位』[9月1日講演速記於協調会館]<教化資料 第7輯>教化団体連合会、1924年10月14日[『教化資料集 第1編』(教化団体連合会、1925年8月15日)収録]
- 『国際連盟政策論』<政治ライブラリー叢書4>政治教育協会、1927年6月24日[『全集』第1巻収録。
復刻：日本図書センター 2004年]
- 『大統領選挙と米国の外交 附 リットン報告書の批判』<社会教育パンフレット 第165輯>社会教育協会、1933年1月1日
- 『国際連盟脱退後に於ける国民の覚悟』日本弘道会、1933年6月1日
- * 『国際政局の現在及び将来』<満鉄夏期大学叢書>南満州鉄道株式会社地方部地方課、1934年12月10日[「極東及び太平洋の現状と将来」と改題『全集』第10巻収録]
- 『太平洋問題と其解決案』日本外交協会、1937年6月17日[中国語訳『太平洋問題与其解決案』東亜同文会、1937年7月8日]
- * 『外交と国民性—特に英、仏、独を中心に—』<社会教育パンフレット 第383輯>社会教育協会、1939年[『全集』第7巻収録]
- 『世界大戦原因論』<政治学叢書 第4輯>岩波書店、1940年2月15日[『全集』第4巻収録]
- * 『世界の情勢と日本の立場』<時局講演第1輯>1940年[『全集』第10巻収録]
- 『山崎靖純氏論文「日本外交の現地位と将来—時艱克服の決定的進路」紹介と批判—六月十二日外交懇談会—』[海軍省調査課]、1941年6月12日[『昭和社會經濟史料集成 第13巻』(大東文化大学東洋研究所、1988年)収録]
- 『米国防参問題』<朝日時局新輯 3>朝日新聞社、1941年10月12日印刷
- 『近代國際政治史』上・中・下巻 第1・第2分冊、実業之日本社、1948年3月20日、12月15日、1949年12月20日、1950年3月30日[『全集』第2巻、第3巻収録]
- 『國際政治学概論』<勁草全書>勁草書房、1950年3月10日[『全集』第1巻収録]
- 『日本の新憲法について』[1954年5月10日講演、文責在記者]<憲法調査資料 No.5>改進黨憲法調査会、1954年10月27日印刷
- 『日本外交の再出発 祖国の自由と独立のために』鹿島研究所、1960年1月30日[『全集』第5巻収録]
- 『日本政治の再出発 祖国の自由と民主化のために』鹿島研究所、1961年11月25日[『全集』第6巻収録]
- 『日本の新しいイメージ—日本国民の自主憲法のあり方—』鹿島研究所出版会、1964年10月20日[『全集』第6巻収録]
- 『神川彦松全集 第1巻』勁草書房、1966年12月23日[『國際政治学概論』、『國際連盟政策論』収録]
- 『神川彦松全集 第2巻』勁草書房、1967年3月30日[『近代國際政治史』(上巻・中巻)収録]
- 『神川彦松全集 第3巻』勁草書房、1967年10月30日[『近代國際政治史』(下巻)収録]
- 『神川彦松全集 第4巻』勁草書房、1968年11月15日[「近代國際政治史要」、「大觀國際政治」、『第一次世界大戦原因論』、「近代國際政治史史料文献解題篇」収録]

『神川彦松全集 第5巻』勁草書房、1968年12月15日[『日本外交の再出発』収録]

『神川彦松全集 第6巻』勁草書房、1969年3月25日[『日本政治の再出発』、『日本の新しいイメージ』収録]

『神川彦松全集 第7巻』勁草書房、1969年9月25日[国際政治学研究論文集]

『神川彦松全集 第8巻』勁草書房、1970年3月30日[国際政治史研究論文集]

『神川彦松全集 第9巻』勁草書房、1971年3月15日[世界国際政治史時事論文集]

『神川彦松全集 第10巻』勁草書房、1972年7月30日[日本国際政治史時事論文集]

『近代国際政治史』原書房、1989年4月20日[「近代国際政治史」(『全集』第4巻収録「近代国際政治史要」の改題)と、「文明論」より見た世界の現状と将来](『国士館大学政経論叢』22、24、7月25日、1976年6月25日)収録]

<編>

『国際条約集』[共編：横田喜三郎]岩波書店、1941年7月15日

『戦後世界年誌』<国際問題 第7号>日本国際問題研究所、1960年10月10日

<講義録>

『外交史』[1924年度東京帝国大学講義]文信社、1924年4月1日

『外交史 上巻』[1934年度東京帝国大学法学部講義]啓明社、1933年10月5日

『外交史 完』[1935年度東京帝国大学法学部講義]啓明社、1935年3月11日

『外交史 下巻』[1936年度東京帝国大学法学部講義]啓明社、1936年3月4日

『外交史 中巻』[1937年度東京帝国大学法学部講義]啓明社、1936年11月28日

『外交史 第1分冊』[1936年度東京帝国大学講義]文精社、1936年10月28日

『外交史 第1分冊』[1936年度東大学講義]東京プリント刊行会、1936年1月15日

『外交史 第1分冊』[1937年度東大学講義]東京プリント刊行会、1936年

『外交史 第2分冊』[1937年度東大学講義]東京プリント刊行会、1936年

『外交史 第3分冊』[1937年度東大学講義]東京プリント刊行会、1937年

2. 共著

最近の世界外交『国際教育』帝国書院、1925年5月23日[1924年6月講演要領速記(於文部省主催国際教育講習会)]

極東最近の外交[『国際講座』『政治教育講座 第三号』政治教育協会、1927年6月1日[『政治教育講座 第二卷』(政治教育協会、1927年10月1日)、同復刻版『政治教育講座 第二卷』(日本図書センター、2004年)収録]

近世国際政治史序説『社会経済体系』第10巻、日本評論社、1927年8月30日

民族主義の考察『政治学研究 小野塚教授在職二十五周年記念 第一巻』吉野作造編、岩波書店、1927年12月25日

国際連盟と国際法『連続国際講座 国際連盟十週年記念』日本放送協会、1930年3月25日

アルザス・ローレーン／ウイーン会議／ヴェルサイユ条約／エジプト独立運動／外交及び外交政策／近東問題／黄禍／国際政治／国際連盟／国民主義運動／鎖国政策／三国協商／三国同盟／シベリア出兵／チロール問題／ワシントン会議『社会科学大辞典』改造社、1930年5月15日[『改訂縮刷 社会科学大辞典』改造社、1932年4月8日]

外交使節の階級及び位次論『山田教授還暦祝賀論文集』神川彦松編、有斐閣、1930年5月25日[『全集』第7巻収録]

スペインの政情『昭和七年 毎日年鑑』毎日新聞社、1931年10月1日

国際連盟を中心として見たる世界の政情『国際連盟と満洲事変』<社会教育パンフレット第139輯>社会教育協会、1931年12月1日

連盟脱退はか非か(脱退反対論)『滿蒙問題資料 第二十二輯』帝国在郷軍人会本部、1932年4月

若し日本が連盟に敗れたら『非常時読本』<『日の出』1-4附録>新潮社、1932年11月1日[座談会：芦田均、稲原勝治、米田実、大山卯次郎、町田梓桜]

国際政局と我が外交『公民教育大系 昭和七年度夏期講習会講演集』文部省普通学務局編、帝国公民教育協会、1932年12月10日[国会図書館所蔵版では1933年1月7日に訂正]

世局ノ重大性ヲ認識シ挙国振張ノ秋タルヲ痛感セシムルコト『大詔奉体と非常時日本 指導大綱解説』<国民更生叢書 第10編>中央教化団体連合会編・刊、1933年9月15日

国際連盟の成立及び発達『大戦後の世界』<世界文化史大系 第23巻>白鳥庫吉等監修、新光社、1933年11月10日

非常時と政治外交『非常時に直面して』日本弘道会、1933年12月20日

連盟脱退と我が国際的地位『公民教育資料集成 昭和八年度公民教育夏季講習会講習集』帝国公民教育協会、1934年1月25日

昭和九年の国際情勢展望『重疊せる非常時諸相の検討』<国民更生叢書 第12編>中央教化団体連合会編・刊、1934年2月1日

ビスマルク保障政策史論に就て『立教授還暦祝賀 外交史論文集』神川彦松編、有斐閣、1934年4月5日[『全集』第8巻収録]

委任統治問題『地理講座日本篇 第五巻 台湾・南洋諸島』改造社、1934年10月20日

移民問題／軍備制限『法律学辞典 1』岩波書店、1934年12月5日

- 日米関係の雲ゆき『「世界を明るくせよ」日本はかく叫ぶ』国際日本協会出版部、1934年12月7日
- レオン・ブルジョア社会連帯論の先駆者に就て『政治及政治史研究 吉野作造先生追悼記念』[編著]岩波書店、1935年11月10日[『全集』第7巻収録]
- 太平洋問題より見たる日滿支『日滿支経済問題講話』東京商工会議所編、巖松堂書店、1936年1月30日
- 賠償問題『法律学辞典 4』岩波書店、1936年8月27日
- 現下内外の情勢『選挙肅正講演集』東京府選挙肅正実行部、[1936年?]
- 米国の極東政策と門戸開放主義『最新平時戦時国際公法研究 第三輯』国家試験編輯部編、育成洞、1937年3月5日
- *国際政局と我が外交『公民教育体系』<講習会講演集>文部省普通学務局・実業学務局編、1937年
- 前途危うきソ連の運命『国論はかく沸騰する わが世界政策の基調としてのソ連対策問題の検討』国際日本協会、1938年3月15日
- 太平洋問題の一考察『東亜経済問題』東京商工会議所編、森山書店、1938年4月14日
- 中華帝国の本質『公法政治論集—野村教授還暦祝賀』刑部荘編、有斐閣、1938年9月30日
- 東亜新秩序に伴ふ支那再建の指導精神『東亜新秩序建設に伴ふ支那再建の指導精神』東亜研究所編・刊、1939年8月11日
- 東亜新秩序と日米関係『米国は敵か味方か』国際日本協会、1939年12月7日
- 新東亜建設の諸条件『支那知識普及講座』第3輯、名古屋市社会教育課、1940年3月15日
- ベルサイユ条約と第二次欧州大戦『仏教思想講座 12』東京帝大仏教青年会、1940年4月29日
- 序『近代欧州史 上』G.P.グーチ著・菊池守訳、改造社、1940年8月20日
- 在外ドイツ人[翻訳]『新独逸国家大系 第4巻 政治篇 4—ナチスの政治組織—』日本評論社、1940年9月29日
- 三民主義の批判[講演]『日本諸学振興委員会研究報告 第七篇(法学)』教学局、1940年12月
- 日本外交史序説『日本外交史』<新講大日本史 第9巻>雄山閣、1941年10月15日[『全集』第8巻収録]
- 太平洋問題『東亜共栄圏の建設問題』山口高等商業学校東亜経済研究会編、生活社、1941年12月30日
- 世界新秩序論『国防論及世界新秩序論 第2』<日本国家科学大系 第14巻>実業之日本社、1942年4月4日[『全集』第8巻収録]
- 最近に於ける南洋の国際関係『南洋総論』<南洋地理大系 第1巻>飯本信之・佐藤弘編、ダイヤモンド社、1942年4月10日
- 大陸共同体の成立条件及本質に就て『日本諸学研究報告 第十四篇(法学)』文部省教学局編、内閣印刷局、1942年5月15日
- 日本外交二千六百年概観『東京帝国大学学術大観 法学部経済学部』東京帝国大学、1942年5月20日
- 近世における日・比関係—日本人のヒリッピンへの発展『海南島・フィリッピン・内南洋』<南洋地理大系 第2巻>飯本信之・佐藤弘編、ダイヤモンド社、1942年6月10日
- 大地域主義の原理と体制『地政学論集』日本地政学協会編、帝国書院、1943年6月20日
- 米国の対東亜政策『米英の東亜制覇政策』大東亜戦争調査会編、毎日新聞社、1943年12月10日[「米

- の対東亜外交小史」と改題、『全集』第8巻収録]
- 米国の描く戦後経営の妄想『米国の世界侵略』大東亜戦争調査会編、毎日新聞社、1944年5月20日
- 国際法／国際連合／国際連盟『世界歴史事典 第七巻』平凡社、1952年1月30日
- 三国同盟／三帝同盟『世界歴史事典 第八巻』平凡社、1952年3月28日
- ジュネーヴ軍縮会議『世界歴史事典 第九巻』平凡社、1952年4月20日
- 勢力均衡／戦債問題『世界歴史事典 第十一巻』平凡社、1952年8月15日
- 世界国家の考察『藤井先生還暦記念 法政の諸問題』有斐閣、1953年1月1日
- ブロンビエールの密約『世界歴史事典』第17巻、平凡社、1953年8月30日
- 序『近世欧洲国際政治史 上巻』田中直吉著、三和書房、1954年6月20日
- 国際政治の上から見た日本国憲法『日本国憲法の性格と改正論』＜特別資料 6＞自由党憲法調査会、1954年8月[7月2日自由党憲法調査会総会(於首相官邸)速記録]
- ペリーの遠征と近代日本の形成『五十周年記念論文集』＜『政経論叢』23・3・4＞明治大学政治経済研究所、1954年11月28日[『全集』第8巻収録]
- 序『奇襲か謀略か 真珠湾の責任』大鷹正次郎著、時事通信社、1954年12月1日
- はしがき『日本国自主憲法試案』憲法研究会編、勁草書房、1955年1月15日
- ウィーン会議／ウィーン条約／ウィーン体制『世界大百科事典 3』平凡社、1955年8月30日[『世界大百科事典 2』[新版]平凡社、1964年9月30日]
- 総説－近代日本の形成とアメリカ『日米文化交渉史 第1巻 総説・外交編』洋々社、1956年3月18日[復刻：原書房、1980年]
- 「日本国憲法」の由来とその真性格－自主憲法をもつ必要－『憲法改正はか非か』毎日新聞社、1956年4月20日
- 真の平和憲法、真の民主憲法とは何か[1月28日自主憲法期成大演説会於神田共立講堂]『自主憲法期成演説集 1』自主憲法期成議員同盟、1956年5月
- 国際法／国際連合／国際連盟『世界歴史事典 [学生版]第三巻』平凡社、1956年6月28日
- 三国同盟／三帝同盟／ジュネーヴ軍縮会議『世界歴史事典 [学生版]第四巻』平凡社、1956年7月23日
- 勢力均衡／戦債問題『世界歴史事典 [学生版] 第五巻』平凡社、1956年8月18日
- ハーグ平和会議『世界歴史事典 [学生版] 第七巻』平凡社、1956年10月5日
- ブロンビエールの密約『世界歴史事典 [学生版]第八巻』平凡社、1956年10月30日
- 日本民族、日本民族主義概説『ナショナリズムの研究』世界経済調査会、1956年12月25日[『全集』第7巻収録]
- 民主的政治教育を徹底せよ－「序」にかえて－『知っておきたい制憲のいきさつ』＜『民主政治』特集第3号＞自主憲法期成同盟 1957年12月1日
- 中立主義概観『中立主義の研究 上』＜国際研究 第1巻＞日本国際問題研究所、1961年1月20日
- 大観国際政治史『外交史及び国際政治の諸問題 英修道博士還暦記念論文集』慶応通信、1962年11月25日[『全集』第4巻収録]

- はしがき『ドイツ・ベルリン問題の研究』＜国際研究 第5巻＞日本国際問題研究所、1963年1月30日
- 憲法改正の必要性『憲法問題』＜新聞資料編集 8＞日本新聞協会編・刊、1964年6月15日
- ビスマルク『歴史よもやま話 西洋篇』文芸春秋、1966年9月1日（＜文春文庫＞文芸春秋、1982年）[座談会(1965年12月14日NHK放送)：池島信平、林健太郎]
- 序『日韓外交資料集成』第1巻、巖南堂書店、1966年11月23日
- 学問方法論について『国士館大学創立五十年記念論文集』国士館大学、1967年11月4日[『全集』第7巻収録]
- 核エネルギー革命とわが安全保障[1967年12月2日講演於名古屋市公会堂]『核時代の日本を考える』＜時局問題講演集 第1集＞月刊時事社、1968年7月20日
- 極東の安全と韓国の統一『韓国統一への道』金正明編、原書房、1968年11月10日[改題再刊：市川正明・神川彦松編『南北統一への道』(心情公論社、1972年12月20日)収録]
- 天皇機関説－統帥権の干犯も含めて－『語りつぐ昭和史 激動の半世紀 第2巻』朝日新聞社、1976年3月31日
- 鹿島守之助博士の学問上の不朽の業績について『鹿島守之助博士追憶録』[鹿島出版会]、1976年11月30日
- 今中次麿学兄を憶ふ『今中次麿 生涯と回想』今中次麿先生追悼記念事業会編、法律文化社、1982年4月15日

3. 論文等(新聞・雑誌掲載)<886 篇>

1915(大正 4)年

- 千九百十二年の英独協商談判『外交時報』262、10月1日
英仏の綿花禁制品宣言[「記事」]『外交時報』264、11月1日
海洋の自由『外交時報』265、11月15日[『全集』第9巻収録]
英国首相陸相等の演説[「記事」]『外交時報』266、12月1日[『全集』第9巻収録]
アルメニヤ人大虐殺[「記事」]『外交時報』267、12月15日[『全集』第9巻収録]

1916(大正 5)年

- 英国外相の巴爾幹外交演説[「記事」]『外交時報』268、1月1日[『全集』第9巻収録]
戦争に関する著書[新刊紹介]『国家学会雑誌』30-1、1月1日
英国首相の大演説[「記事」]『外交時報』269、1月15日[『全集』第9巻収録]
米国の対英抗議[「記事」]『外交時報』269、1月15日[『全集』第9巻収録]
チャーチル氏の辞職[「記事」]『外交時報』270、2月1日[『全集』第9巻収録]
伊太利の単独不講和加盟[「記事」]『外交時報』271、2月15日[『全集』第9巻収録]
独逸宰相の演説－議会に於ける講和問題－[「記事」]『外交時報』272、3月1日[『全集』第9巻収録]
疲弊戦争と戦局の将来『外交時報』273、3月15日[『全集』第9巻収録]
バラロング事件－独逸潜航艇員虐殺問題－[「記事」]『外交時報』273、3月15日
英国労働党の態度[「記事」]『外交時報』274、4月1日[『全集』第9巻収録]
封鎖に関する英国外相の演説[時報]『外交時報』274、4月1日
吉野博士著「現代の政治」[新刊紹介]『国家学会雑誌』30-4、4月1日
武装商戦問題『外交時報』275、4月15日
仏首相の伊太利訪問『外交時報』275、4月15日[「ブリアン・フランス首相のイタリヤ訪問」と改題、『全集』第9巻収録]
英国議会に於ける講和討議[「記事」]『外交時報』276、5月1日[『全集』第9巻収録]
独逸支配下に於ける白耳義の現状[「記事」]『外交時報』277、5月15日[『全集』第9巻収録]
巴里連合国会議[「記事」]『外交時報』278、6月1日[『全集』第9巻収録]
潜航艇戦と独逸議會[「記事」]『外交時報』278、6月1日[『全集』第9巻収録]
英独両首相の応酬[「記事」]『外交時報』279、6月15日[『全集』第9巻収録]
英国徴兵問題解決[「記事」]『外交時報』280、7月1日
独逸の講和運動[「記事」]『外交時報』280、7月1日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』280、7月1日[松宮春一郎、有川治助、仲濱武一との分担執筆]

- 全独逸主義概説『国家学会雑誌』30-7、8、7月1日、8月1日
- 英国外相対独逸宰相の論戦[「記事」]『外交時報』281、7月15日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』281、7月15日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 独逸宰相の対時局演説[「記事」]『外交時報』282、8月1日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』282、8月1日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 巴里連合会経済会議[「記事」]『外交時報』283、8月15日[『全集』第9巻収録]
- 希臘連合会に屈す[「記事」]『外交時報』283、8月15日
[「欧米時報」]『外交時報』283、8月15日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
[「欧米時報」]『外交時報』284、9月1日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 独逸の世界政策と講和条件『外交時報』285、9月15日[『全集』第9巻収録]
- 波斯に於ける独逸勢力の失墜[「記事」]『外交時報』285、9月15日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』285、9月15日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 講和の問題とビュロー公[「記事」]『外交時報』286、10月1日
[「欧米時報」]『外交時報』286、10月1日
- 羅馬尼の開戦[「記事」]『外交時報』287、10月15日
- 猛将ブルーシロフ大将[「人物評伝」]『外交時報』287、10月15日
[「欧米時報」]『外交時報』287、10月15日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 現戦争と英帝国の統一『外交時報』288、11月1日
- 独逸宰相と潜航艇戦[「記事」]『外交時報』288、11月1日
[「欧米時報」]『外交時報』288、11月1日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 英帝国組織改造問題の趨勢[「雑報」]『国家学会雑誌』30-11、11月1日
- 連合国の講和条件如何『外交時報』289、11月15日[『全集』第9巻収録]
- 独逸宰相の歴史的演説[「記事」]『外交時報』289、11月15日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』289、11月15日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 官軍対抗の希臘『外交時報』290、12月1日
- 英国陸軍と中立国の講和斡旋[「記事」]『外交時報』290、12月1日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』290、12月1日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 亜拉比亞民族と国民主義『外交時報』291、12月15日[『全集』第9巻収録]
- 連合国の希臘圧服[「記事」]『外交時報』291、12月15日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』291、12月15日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]

1917(大正 6)年

- 波斯王国再興の宣言[「記事」]『外交時報』292、1月1日
- 豪州政界の不安[「記事」]『外交時報』292、1月1日
- [「欧米時報」]『外交時報』292、1月1日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 太平洋の覇権と米国の外交『国家学会雑誌』31-1、3、1月1日、3月1日[『全集』第10巻収録]
- 独逸宰相の戦因及平和論[「記事」]『外交時報』293、1月15日[『全集』第9巻収録]
- 埃国老帝の崩殂[「記事」]『外交時報』293、1月15日[『全集』第9巻収録]
- [「欧米時報」]『外交時報』293、1月15日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 希臘の難局[「記事」]『外交時報』294、2月1日
- 独逸の補助服役法案[「記事」]『外交時報』294、2月1日
- [「欧米時報」]『外交時報』294、2月1日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 羅馬尼攻略の影響[「記事」]『外交時報』295、2月15日[『全集』第9巻収録]
- 独逸同盟国の講和提議[「記事」]『外交時報』295、2月15日[『全集』第9巻収録]
- [「欧米時報」]『外交時報』295、2月15日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 連合国の羅馬會議『外交時報』296、3月1日[「連合国の講和提議」と改題、『全集』第9巻収録]
- [「欧米時報」]『外交時報』296、3月1日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 平和演説より米独断行まで[「記事」]『外交時報』297、298、3月15日、4月1日[『全集』第9巻収録]
- [「欧米時報」]『外交時報』297、3月15日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 無制限潜水艇戦と独逸宰相[「記事」]『外交時報』298、4月1日[『全集』第9巻収録]
- [「欧米時報」]『外交時報』298、4月1日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 米国開戦と戦局の将来[「記事」]『外交時報』299、4月15日
- [「欧米時報」]『外交時報』299、4月15日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 独逸究竟の運命『外交時報』300、5月1日[『全集』第9巻収録]
- 汎チュラン主義[「雑報」]『国家学会雑誌』31-5、5月1日
- [「欧米時報」]『外交時報』300、5月1日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- 最近の時局と独逸宰相[「記事」]『外交時報』301、5月15日[『全集』第9巻収録]
- 露国革命の難局[「記事」]『外交時報』301、5月15日[「ロシア三月革命の難局」と改題、『全集』第9巻収録]
- [「欧米時報」]『外交時報』301、5月15日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]
- バーネット移民法の成立『外交時報』302、6月1日[『全集』第10巻収録]
- 露国革命と波蘭復興[「記事」]『外交時報』302、6月1日[「ロシア三月革命とポーランド復興」と改題、『全集』第9巻収録]
- [「欧米時報」]『外交時報』302、6月1日[松宮春一郎、長瀬鳳輔、有川治助との分担執筆]

- 最近の露国政局[「雑報」]『国家学会雑誌』31-6、6月1日
- 独逸殖民帝国夢想の終滅[「記事」]『外交時報』303、6月15日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』303、6月15日[長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆]
- アルバニヤ独立の伊国宣言[「記事」]『外交時報』304、7月1日
[「欧米時報」]『外交時報』304、7月1日[長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆]
- 米国と支那[「内外雑観」]『大学評論』1-7、7月1日
- 無併合無賠償主義と連合国[「内外雑観」]『大学評論』1-7、7月1日
- 希臘国王の退位[「記事」]『外交時報』305、7月15日
[「欧米時報」]『外交時報』305、7月15日[長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆]
- 奥国政界の不安定[「記事」]『外交時報』306、8月1日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』306、8月1日[長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆]
- 独逸の政変と戦局及び独逸帝国の将来『大学評論』1-8、8月1日
[「欧米時報」]『外交時報』307、8月15日[長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆]
- 独逸国民の民主化『外交時報』308、9月1日[『全集』第9巻収録]
- 露国政界の難局[「記事」]『外交時報』308、9月1日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』308、9月1日[長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆]
- 戦後の平和問題に関する最近の論調[「雑報」]『国家学会雑誌』、31-9、9月1日[『全集』第9巻収録]
- 国際社会党大会問題の紛糾[「内外雑観」]『大学評論』1-9、9月1日
- 羅馬教皇と講和問題[「内外雑観」]『大学評論』1-9、9月1日
- 戦後に於ける土耳其の運命如何『外交時報』309、9月15日[『全集』第9巻収録]
- 最近戦局の概観[「記事」]『外交時報』309、9月15日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』309、9月15日[長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆]
- ユゴスラヴィヤ問題『外交時報』310、10月1日[『全集』第9巻収録]
- 莫斯科に於ける全露国民大会[「記事」]『外交時報』310、10月1日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』310、10月1日[長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆]
- 日本出兵論に就いて[「内外雑観」]『大学評論』1-10、10月1日
[「欧米時報」]『外交時報』311、10月15日[長瀬鳳輔、和田藤太郎、有川治助、西山重和との分担執筆]
[「欧米時報」]『外交時報』312、11月1日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]
- 新露西亜の外交政策『外交時報』313、11月15日[『全集』第9巻収録]
- 独逸政局の危機[「記事」]『外交時報』313、11月15日
[「欧米時報」]『外交時報』313、11月15日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]
[「欧米時報」]『外交時報』314、12月1日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]

現戦争ニ於ケル波蘭[「雑録」]『国家学会雑誌』、31-12、12月1日[『全集』第9巻収録]
戒心すべき連合国の弱点『外交時報』315、12月15日[『全集』第9巻収録]
独逸外相とアルサス・ローレン[「記事」]『外交時報』315、12月15日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』315、12月15日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]

1918(大正7)年

スラブ民族の将来『外交時報』316、1月1日
勃牙利の親露派と親墺派[「記事」]『外交時報』316、1月1日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』316、1月1日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]
露独両帝の往復文書[「記事」]『外交時報』317・318、1月15日、2月1日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』317、1月15日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]
現戦争に於ける巴爾幹外交[「雑報」]『国家学会雑誌』32-2、2月1日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』318、2月1日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]
墺洪国の民族問題『外交時報』319、2月15日[『全集』第9巻収録]
羅馬尼対露国過激派の葛藤[「記事」]『外交時報』319、2月15日
[「欧米時報」]『外交時報』319、2月15日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]
無併合主義と独墺関係[「記事」]『外交時報』320、3月1日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』320、3月1日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]
ウクライナ問題の開展『外交時報』321、3月15日
米独講和条約の対照[「記事」]『外交時報』321、3月15日[『全集』第9巻収録]
独墺側及小露間講和条約の影響[「記事」]『外交時報』321、3月15日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』321、3月15日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]
独墺側及小露間講和条約顛末[「記事」]『外交時報』322、4月1日[『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』322、4月1日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]
独逸の新東進政策『外交時報』323、4月15日[ドイツの新東進政策『全集』第9巻収録]
[「欧米時報」]『外交時報』323、4月15日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]
妥協的平和来るの日『外交時報』324~326、5月1、15日、6月1日
[「欧米時報」]『外交時報』324、5月1日[長瀬鳳輔、有川治助、和田藤太郎、西山重和との分担執筆]
現戦争ニ於ケル開戦責任ノ批判『国家学会雑誌』、32-5、7、10、11、5月1日、7月1日、10月1日、11月1日[「第一次世界戦争ニ於ケル開戦責任ノ批判」と改題『全集』第9巻収録]
リヒノヴスキー公の告白と現戦争の責任[「記事」]『外交時報』325、5月15日
[「欧米時報」]『外交時報』325、5月15日[長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆]
露独関係と連合国[「記事」]『外交時報』326、6月1日[『全集』第9巻収録]

- 〔「欧米時報」』『外交時報』326、6月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
アルメニア人とトルコ 『外交時報』327、6月15日〔『全集』第9巻収録〕
〔「欧米時報」』『外交時報』327、6月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
独領植民地の処分問題 『太陽』24-8、6月15日〔『全集』第9巻収録〕
軍備競争と軍備制限 『外交時報』328、7月1日〔『全集』第7巻収録〕
土耳其及勃牙利の反目〔「記事」〕『外交時報』328、7月1日
〔「欧米時報」』『外交時報』328、7月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
国際法の将来 『新時代』2-7、7月1日
独逸の覇権と埃匈国の民族問題〔「記事」〕『外交時報』329、7月15日〔『全集』第9巻収録〕
〔「欧米時報」』『外交時報』329、7月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
勃牙利内閣の更迭〔「記事」〕『外交時報』330、8月1日
〔「欧米時報」』『外交時報』330、8月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
アルメニヤ人と土耳其 『ぬき穂』8、8月1日
米国に関する独逸の違算 『外交時報』331、8月15日〔『全集』第9巻収録〕
〔「欧米時報」』『外交時報』331、8月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』332、9月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』333、9月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
高加索の過去現在及将来 『外交時報』334、10月1日〔『全集』第9巻収録〕
〔「欧米時報」』『外交時報』334、10月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
普魯西軍閥の苦悶 『外交時報』335、10月15日〔『全集』第9巻収録〕
〔「欧米時報」』『外交時報』335、10月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』336、11月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』337、11月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』338、12月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』339、12月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕

1919(大正8)年

- 人種問題解決の緊要 『外交時報』340、1月1日〔『全集』第9巻収録〕
〔「欧米時報」』『外交時報』340、1月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』341、1月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』342、2月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』343、2月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕

〔「欧米時報」』『外交時報』344、3月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』345、3月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』346、4月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』347、4月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』348、5月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』349、5月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』350、6月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』351、6月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』352、7月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』353、7月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』354、8月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』355、8月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』356、9月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』357、9月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』358、10月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』359、10月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』360、11月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』361、11月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』362、12月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕
〔「欧米時報」』『外交時報』363、12月15日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕

1920(大正9)年

〔「欧米時報」』『外交時報』364、1月1日〔長瀬鳳輔、有川治助、西山重和との分担執筆〕

1923(大正12)年

欧州外交時事〔以下2篇：「オットマン帝国の終焉」、「ローザンヌ講和会議序幕」〕『国際法外交雑誌』22-1、1月15日〔「ローザンヌ講和会議序幕」を「ローザンヌ講和会議の経過」と題して『全集』第9巻収録〕

欧州外交時事〔以下4篇：「ローザンヌ講和会議の進行」、「倫敦会議よりバ里会議へ」、「モスカウ軍備縮小会議破裂」、「ソヴェエトの諸共和国の合同運動の進捗」〕『国際法外交雑誌』22-2、2月15日

欧州外交時事〔以下4篇：「ローザンヌ講和会議の進行(二)」、「ルール占領問題の経過」、「メーメル問題の紛糾」、「独逸政府の非戦協約提議」〕『国際法外交雑誌』22-3、3月15日〔「ローザンヌ講和会議の進行(二)」を「ローザンヌ講和会議の経過」と題して『全集』第9巻収録〕

総会にて取扱はれた通商衡平待遇問題『国際知識』3-4、4月1日

欧州外交時事〔以下2篇：「ローザンヌ講和会議の破裂(三)」、「ムツソリーニ内閣の外交政策」〕『国際法外

交雑誌』22-4、4月15日[「ローザンヌ講和会議の破裂(三)」を「ローザンヌ講和会議の経過」と題して『全集』第9巻収録]

欧州外交時事[以下4篇:「仏独の耐久戦」、「デルカトセ逝去」、「波蘭リトアニア間の紛争と東欧の危局」、「メーメル地方の所属問題の決定」、「ローザン講和公会議の散会より再開まで」]『国際法外交雑誌』22-5、5月15日

欧州外交時事[以下4篇:「ルール問題の経過」、「独逸の賠償提議」、「ソヴィエト露国の宗教征伐と外国の抗議」、「国際連盟理事会と第四回連盟総会期日決定」]『国際法外交雑誌』22-6、7月1日

賠償問題の根本点『外交時報』452、453、9月1日、10月1日[『全集』第9巻収録]

欧州外交時事[以下2篇:「ローザンヌ講和会議閉幕、講和条約調印」、「ボナー、ロー氏の隠退、ボードウイン氏首相就任」]『国際法外交雑誌』22-7、10月15日[「ローザンヌ講和会議閉幕、講和条約調印」を「ローザンヌ講和会議の経過」と題して『全集』第9巻収録]

アッペ・ド・サンピエールの永久平和案に就て『国際法外交雑誌』22-8、11月15日

欧州外交時事[以下4篇:「仏国の海軍々備制限条約太平洋に関する四国条約批准」、「賠償問題に関する外交戦と欧州の難局」、「クロー内閣瓦解新内閣成立」、「スタンプリスキー政府の没落」]『国際法外交雑誌』22-8、11月15日

欧州外交時事[以下4篇:「賠償問題に関する外交戦」、「独逸の消極抵抗の失敗と其の抛棄」、「ギリシャ、伊太利間の危機と国際連盟の介入」]『国際法外交雑誌』22-9、12月15日[「ギリシャ、伊太利間の危機と国際連盟の介入」を『全集』第9巻収録]

1924(大正13)年

ローザンヌ講和会議と新土耳其の建設『外交時報』458、1月1日[『全集』第9巻収録]

欧州外交時事[以下3篇:「賠償能力調査会開催の提唱と其の失敗」、「英帝国会議及帝国経済会議」、「ボードウキン氏の新政策と英議院解散」]『国際法外交雑誌』23-1、1月15日

欧州現下の難局と其解決策『新興』1、2月10日

欧州外交時事[以下5篇:「将に動かむとする地中海の形勢—伊西接近」、「タンジール港の国際的制度確定に関する仏西英会議」、「ボードウイン政府の敗戦より退却まで」、「独逸対連合国の問題、軍事管理独逸前皇太子帰国」、「賠償問題の経過、専門家委員会設置」]『国際法外交雑誌』23-2、2月15日

大学精神『帝国大学新聞』68、3月2日

国際平和思想より観たるカントとウエルソン『国際法外交雑誌』23-3、3月15日[『全集』第7巻収録]

欧州外交時事[以下3篇:「仏チェ同盟の成立と欧州新均衡の曙光」、「小協商国ベルグラード会議」、「伊、ユ、協商の成立とフューメ問題の解決」]『国際法外交雑誌』23-3、3月15日[「仏チェ同盟の成立と欧州新均衡の曙光」を『全集』第9巻収録]

国際連盟による貨幣価値の管理を論ず『外交時報』465、4月15日[『全集』第9巻収録]

欧州外交時事[以下3篇:「英国労働党内閣の成立と其の外交政策」、「英伊両国の露国承認と連合国の対露政策の変遷」、「レーニン逝く」]『国際法外交雑誌』23-4、4月15日[「英国労働党内閣の成立と其の外交政策」を『全集』第9巻収録、「レーニン逝く」を「レーニン逝去と後継政府の対外政策」『全集』第9巻収録]

ソビエト露西亜の対外政策の現在と将来『改造』6-5、5月1日[『全集』第9巻収録]

欧州外交時事[以下5篇:「賠償専門委員会の経過」、「仏国増税案と政局の危機」、「白耳義政局の危機」、「露

国新内閣の外交政策、「回教主の追放と土耳其の改革」『国際法外交雑誌』23-5、5月15日[「回教主の追放と土耳其の改革」を『全集』第9巻収録、「露国新内閣の外交政策」を「レーニン逝去と後継政府の対外政策」『全集』第9巻収録]

排日問題と人種問題『帝国大学新聞』76、5月23日

欧州外交時事[以下4篇:「賠償専門委員会の報告と賠償問題の一転機」、「ポアンカレー内閣の敗北と改造内閣の成立」、「伊太利総選挙と同国の政局」、「希臘政局の変遷と共和政体の宣布」]『国際法外交雑誌』23-6、7月1日

歴史の進化に於ける国際連盟『国家学会雑誌』38-8、8月1日

欧州外交時事[以下4篇:「ポアンカレーの失脚よりエリオの出現まで」、「独逸の総選挙の結果と欧州政局」、「英露倫敦会議の経過と成績」、「伊太利チェコ・スロヴァツクの協商成立」]『国際法外交雑誌』23-7、9月15日

世界外交の大勢と我国の地位『斯民』19-10、10月1日

欧州外交時事[以下5篇:「倫敦賠償会議の準備的外交」、「倫敦賠償会議の経過概要」、「独逸の賠償義務不履行の決定及制裁に関する問題」、「ルール軍事占領撤廃の問題」、「倫敦諸協定の正式調印」]『国際法外交雑誌』23-8、10月15日

近世外交の趨勢と日本の地位『青年』9-11、12、11月1日、12月1日

青年よ何ぞ地球大に活躍せざる『立憲青年』4-2、11月1日

欧州外交時事[以下4篇:「一陽来復の国際連盟」、「第五回国際連盟総会経過概要」、「相互援助強制仲裁及軍備縮小に対する各国の態度」、「平和議定書の要領」]『国際法外交雑誌』23-9、11月15日

欧州外交時事[以下5篇:「英国の政変、保守党内閣の成立」、「ボールドウィン内閣の外交政策」、「ドウズ案の実行進捗」]『国際法外交雑誌』23-10、12月15日

1925(大正14)年

世界外交の大勢と我国の地位[「思潮」]『弘道』392、393、1月1日、2月1日[第2回本文タイトルのみ「近世外交の大勢と日本の地位」]

英国労働党内閣の治績を顧みて『立憲青年』5-1、1月1日

欧州外交時事[以下6篇:「仏国政府のモスコウ政府承認」、「モスコウ政府と洪牙利の国交回復」、「独逸総選挙と其結果」、「英国保守党政府の英露条約破棄」、「ザグルール、マクドナルド会商」、「ワハビ族のメツカ占領」]『国際法外交雑誌』24-1、1月15日

*巻頭言『時流』1-2、2月1日

日露協定に面して『帝国大学新聞』106、2月2日

最近の外交『山口県教育』296、2月7日

欧州外交時事[以下4篇:「スーダン総督暗殺事件英国の強圧政策」、「チエンパレーン、エリオ会見」、「第三十二回国際連盟理事会」、「新嘉坡軍港拡張計画の確定」]『国際法外交雑誌』24-2、2月15日

*日露協定の政治的意義『時流』1-3、3月1日

欧州外交時事[以下3篇:「米仏交渉と連合国間債務問題の紛糾」、「賠償分配に関する連合国巴里会議」、「ケルン撤兵延期と連合国対独逸交渉」]『国際法外交雑誌』24-3、3月15日

日露国交の回復と其将来『立憲青年』5-4、4月1日

欧州外交時事[以下4篇:「国際阿片会議の失敗」、「独逸右傾内閣の成立」、「独逸大統領エバート逝く」、「希臘土耳其間の危機」]『国際法外交雑誌』24-4、4月15日

支那事件の観察『帝国大学新聞』122、6月15日

欧州外交時事[以下4篇:「欧州保障協定の好望的進展」、「国際阿片会議の終了と其の結果」、「第三十三回国際連盟理事会と平和議定書に対する英国の声明」、「独逸大統領の選挙ヒンデンブルグ元帥の当選」]『国際法外交雑誌』24-6、7月1日

世界平和と人種問題の解決『立憲青年』5-7、7月1日

平和か衝突か『立憲青年』5-8、9、8月1日、9月1日【(上)人種問題の将来、(下)禍機は人種問題】

欧州外交時事[以下3篇:「モロッコの叛乱と仏国の危局」、「パナルヴェ内閣の成立と其政策」、「ケルン撤兵問題に関連する連合国の対独通牒」]『国際法外交雑誌』24-7、9月1日

欧州外交時事[以下2篇:「英仏両国政府の保障協定に関する外交文書の公表」、「仏国の保障回答に対する独逸の復牒」]『国際法外交雑誌』24-8、10月1日

欧州外交時事[以下5篇:「英仏外相の保障会商と仏独の保障応酬」、「保障協定に関する倫敦専門委員会会議」、「英仏の戦時債務協定案の成立」、「モロッコ征戦に関する仏西協商と講和掛引」、「モスール境界調査委員会の報告書」]『国際法外交雑誌』24-9、11月1日

勢力均衡に就ての一考察『国家学会雑誌』39-11、12、11月1日、12月1日[『全集』第7巻収録]

欧州国際政治の新紀元 欧州保障協定の成立とその意義『帝国大学新聞』141、11月9日

欧州外交時事[以下4篇:「第六回国際連盟総会の経過と成績」、「国際経済会議召集の問題」、「第三十五回国際連盟理事会とモスール問題の紛糾」、「シリアの判乱」]『国際法外交雑誌』24-10、12月1日

1926(大正15・昭和元年)

欧州外交時事[以下4篇:「ロカルノ会議の計経過」、「最終議定書及び相互保障条約の内容」、「独白間、独仏間、独波間、独千間の仲裁協約」、「連合国側の独逸政府に与ふる共同書翰」、「ロカルノ条約に対する世評」]『国際法外交雑誌』25-1、1月1日[「連合国側の独逸政府に与ふる共同書翰」を除き、「ロカルノ会議の経過と成果」]『全集』第9巻収録]

波斯国民主義と最近の革命[雑録]『国際法外交雑誌』25-3、3月1日[『全集』第9巻収録]

欧州外交時事[以下5篇:「ロカルノ条約と独逸議會」、「独逸に於けるロカルノ条約調印式」、「危険に瀕せる仏国政局—ブリアン内閣成る」、「希勃紛争と連盟の解決」、「モスール問題に対する連盟理事会の決定」]『国際法外交雑誌』25-3、3月1日

連盟理事会改造問題の意義『帝国大学新聞』160、3月29日

連盟理事会の組織変更問題と我国の対策『外交時報』512、4月1日[『全集』第10巻収録]

欧州外交時事[以下5篇:「連盟主催軍縮会議計画の進行と米露の態度」、「独逸政局の危機—第二次ルーター内閣成立」、「独逸の連盟加入の申請」、「露土保障条約の調印—モスール判定の対するアンゴラの態度」、「トルコ、ユーゴ、スラウイヤ間の講和修好条約」]『国際法外交雑誌』25-4、4月1日

人口問題の見地より我外交政策の基調を論ず『中央公論』41-4、4月1日[『全集』第10巻収録]

欧州外交時事[以下3篇:「連盟理事会拡張問題と各国の態度」、「南チロールの伊太利化政策と伊独論争」、「仏土中立条約の調印」]『国際法外交雑誌』25-5、5月1日

軍縮問題解決の曙光『帝国大学新聞』168、5月31日

国際連盟主要機関の構成に関する理想と現実－国際政治の進化は漸進的であれ－『国際知識』6-7、7月1日[『全集』第9巻収録]『全集』第7巻収録]

欧州外交時事[以下2篇:「臨時連盟総会の失敗と理事会拡張問題の紛糾」、「露独中立条約の調印」]『国際法外交雑誌』25-6、7月1日

欧州外交時事[以下4篇:「理事会改造問題の発表とブラジルの連盟脱退」、「軍縮会議準備委員会の経過」、「波蘭の改革的政変」、「モスル問題の解決」]『国際法外交雑誌』25-7、9月1日[「理事会改造問題の発表とブラジルの連盟脱退」を「国際連盟理事会改造問題の発展」と改題、]『全集』第9巻収録]

伊太利の旅の印象『経済往来』1-8、10月1日

欧州外交時事[以下5篇:「仏国政局の転変と財政問題」、「仏国元老院のロカルノ条約批准案可決」、「独逸諸王室財産没収問題と独逸政局の共和主義的傾向」、「アブデル、クリムの没落」、「仏西間のモロッコ協定成立」]『国際法外交雑誌』25-8、10月1日

国際連盟の威力『帝国大学新聞』182、10月18日

欧州外交時事[以下5篇:「ポアンカレーの出現と財政問題の料理」、「仏羅同盟条約の締結」、「伊西中立条約の締結」、「タンジール問題の再燃」、「モスコウ政府の中立条約網締結の努力」]『国際法外交雑誌』25-9、11月1日[「モスコウ政府の中立条約網締結の努力」を「レーニン逝去と後継政府の対外政策」]『全集』第9巻収録]

普選と法律教育の革新『法律春秋』1-3、11月1日

幣原外相の消極的移民政策を排す『外交時報』527、11月15日[『全集』第10巻収録]

欧州外交時事[以下3篇:「第七回連盟総会の経過」、「仏独両相トアリー会見」、「ストレーゼマン、ポアンキヤレー応酬」]『国際法外交雑誌』25-10、12月1日[「第七回連盟総会とドイツ国の介入」]『全集』第9巻収録]

民族の本質に就ての考察『国家学会雑誌』40-12、12月1日[『全集』第7巻収録]

日支連邦と関税同盟『帝国大学新聞』190、12月13日

1927(昭和2)年

大英帝国の将来を論ず 英語民族団結の力益々発展せん『外交時報』530、1月1日[『全集』第9巻収録]

ロカルノ主義とパン・ヨーロッパ主義の異同論『国際法外交雑誌』26-1、1月1日[『全集』第7巻収録]

国際政治事情概観[「一九二六年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』41-1、1月1日

欧米思想直輸入の危険『法律春秋』2-1、1月1日

混血児クーデントホルフ[「学界余談」]『東京朝日新聞』1月8日[東京朝日新聞学芸部編『学界余談 第一編』(興学会出版部、1928年10月28日)収録]

日支経済同盟の急要『経済往来』2-2、2月1日

国際連盟年鑑を讀みて[「学芸欄」]『帝国大学新聞』199、2月28日

米国の軍縮提議『帝国大学新聞』201、3月21日

強味は支那に 大使の不可侵権は絶対ではない[談]『大阪毎日新聞』4月8日[『新聞集成昭和編年史 昭和二年度版Ⅱ』(明治大正昭和新聞研究会、1988年)収録]

革命支那の一觀察『帝国大学新聞』204、4月13日
対支政策の実利的予測『帝国大学新聞』212、6月6日
クーデンホーフの名著『汎ヨーロッパ』[「読書ページ」]『東京朝日新聞』6月10日
[「余が感銘を与へられた書」]『帝国大学新聞』213、6月13日
世界平和主義の考察『外交時報』541、6月15日[『全集』第7巻収録]
軍縮会議の前途『帝国大学新聞』216、7月4日
国際連盟と日支関税同盟『国論』13-10、10月20日
モスクー政府の連盟軍縮参加問題『帝国大学新聞』228、11月14日
国際連盟と世界平和[談]『家庭週報』912、11月18日

1928(昭和3)年

国際政治事情概観[「一九二七年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』42-1、1月1日
年頭の世界政局観『帝国大学新聞』234、1月1日
米国提案不戦条約『帝国大学新聞』237、1月23日
米国提案非戦条約と国際連盟[「時論」]『国際法外交雑誌』27-2、2月1日[『全集』第9巻収録]
世界戦争前史への一貢献 ア氏著『ビスマルク・アンドラシー及びその後継者』を読む『帝国大学新聞』
245、3月19日
米仏新仲裁々判条約と我国の対策『外交時報』560、4月1日[『全集』第10巻収録]
済南事件の重大性『帝国大学新聞』252、5月14日
東亜政局の転換『帝国大学新聞』263、9月17日
不戦条約の価値批判『外交時報』572、10月1日[『全集』第9巻収録]
国際制裁に就て『国際法外交雑誌』27-8、10月1日[『全集』第7巻収録]
戦争と生存競争—戦争進化論の序説—『国家学会雑誌』42-10、10月1日[『全集』第7巻収録]
外交[昭和三年学界・財界・産業界・政界・社会運動界回顧]『経済往来』3-12、12月1日

1929(昭和4)年

不戦条約の国際法律的觀察『国際知識』9-1、4、1月1日、4月1日
神聖同盟の特色に就て『国際法外交雑誌』28-1、1月1日
国際政治事情概観[「一九二八年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』43-1、1月1日
年頭の世界政局観『帝国大学新聞』278、1月1日
国際紛争平和処理一般規定解説『法学協会雑誌』47-2、2月1日[『全集』第8巻収録]
国際主義を理解せよ『外交時報』584、4月1日
英文米国の対日外交—和田博士著、東洋文庫出版—[「読書ページ」]『東京朝日新聞』4月5日

「人民の名に於て」の論争に就て『帝国大学新聞』293、4月22日[美濃部達吉編『不戦条約中「人民の名に於て」の問題』(日本評論社、1929年)、『全集』第10巻収録]

Friedrich Stieve, Germany and Europe, 1928[「紹介及批判」]『国家学会雑誌』43-5、5月1日

最近帝国主義の国際政治学的概念『国家学会雑誌』43-7、7月1日

不戦条約の国際法上に於ける意義『朝鮮及満州』261、8月1日[『全集』第9巻収録]

露支紛争の世界史的意義『帝国大学新聞』306、9月9日

国際司法裁判所任意条項を受諾せよ『外交時報』596、10月1日[『全集』第10巻収録]

軍縮の国際政治学的考察(国際政治政策論及び一般理論上より見たる軍縮問題)『新使命』6-11、11月1日

1930(昭和5)年

国際政治事情概観[「一九二九年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』44-1、1月1日[『全集』第9巻収録]

国際政局は協調へ 一九三〇年頭所感『帝国大学新聞』321、1月1日

去る一年の我国外交の跡を顧みて『法律春秋』5-1、1月1日

軍備縮小私観『東京日日新聞』1月3~8、10~15日

国際連盟と世界法の建設『国家学会雑誌』44-4、10、11、4月1日、10月1日、11月1日[『全集』第7巻収録]

軍備縮小と我國民の覚悟『補習教育』86、4月1日

三国協定の政治的批判『帝国大学新聞』335、4月14日

日支関税協定の国際政治的意義『経済往来』5-5、5月1日

倫敦三国協定の政治的批判『外交時報』610、5月1日[『全集』第10巻収録]

倫敦条約反対論の批判『外交時報』620、10月1日[『全集』第10巻収録]

一九三〇年度の外交界[「政界の回顧」]『経済往来』5-13、12月1日

1931(昭和6)年

武力的軍備と平和的軍備『外交時報』626、1月1日[『全集』第7巻収録]

国際政治事情概観[「一九三〇年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』45-1、1月1日

世界の政局は反動時代へー弁証法的発展の一過程ー『帝国大学新聞』366、1月1日

欧州連合は何処へ行く『法律春秋』6-1、1月1日

アジア連合は果して可能なるか『改造』13-2、2月1日[『全集』第10巻収録]

世界平和への道[1930年11月11日講演大要(於平和記念日講演会)]『国際知識』11-2、2月1日

近代帝国主義の目的『国家学会雑誌』45-5、5月1日

文化共同体としての民族『国家学会雑誌』45-7、7月1日[『全集』第7巻収録]

ベルリン郊外 ワンゼーに冷風をば満喫[「世界の涼は何処に」]『帝国大学新聞』394、7月13日

- 帝国主義か国際主義か『千葉教育』471、7月15日
- 外交史の研究態度に就て[「講評と研究」]『受験界』12-8、8月1日
- 満州は何処へ行く[「時の徴」]『婦人之友』25-8、8月1日
- 驚くべき国際法蹂躪[「ブラック・チェンバを読む」]『大阪毎日新聞』8月31日
- 満蒙と我が特殊權益座談会『文芸春秋』9-10、10月1日[9月4日(於星ヶ丘茶寮)座談会：建川美次、佐藤安之助、高木陸郎、森格、大西斉、中野正剛、佐々木茂索][『全集』第10巻、『「文芸春秋」にみる昭和史』第1巻(文芸春秋、1987年)収録]
- 国際連盟の干与[「満蒙の事情」]『サンデー毎日』10-46、10月11日
- 満州問題の国際政治学的考察『外交時報』645、10月15日[『全集』第10巻収録]
- 満蒙問題と国際連盟の干渉『工場世界』12-20、10月15日
- 満州問題は何処へ行く－委任統治制の採用－『帝国大学新聞』403、10月26日
- 印象の一つ二つ ベルリンやらアメリカの[「世界の図書館に遊ぶ 本学教授に聴く」]『帝国大学新聞』404、10月28日
- 満蒙は結局委任統治に[「時局を検討す」]『東京朝日新聞[夕刊]』10月28日
- 民族国家の概念『国家学会雑誌』45-11、11月1日[『全集』第7巻収録]
- 国際政治学より観たる満州問題[「説苑」]『支那』22-11、11月1日[1931年10月5日支那学術研究会講演筆記、『全集』第10巻収録]
- 国際連盟を中心として見たる世界の政情『国際知識』11-12、12月1日[『全集』第9巻収録]

1932(昭和7)年

- 満州委任統治論『外交時報』650、1月1日
- 我帝国の進むべき途『弘道』476、1月1日
- 国際政治事情概観[「一九三一年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』46-1、1月1日
- 現代国家の類型と我帝国の前途『法律春秋』7-1、1月1日
- 米国の通牒と我国の立場『大阪毎日新聞』1月10、13日
- 現代国家の類型と我帝国の前途『思想統制』1-3、3月1日[『法律春秋』7-1、1月から転載]
- 大陸政策か国際政策か－岐路に立つ日本外交『帝国大学新聞』424、3月21日
- 十字路頭の日本外交－満州新国家の政治的展望－『外交時報』656、4月1日[『全集』第10巻収録]
- 満州新国家の国際政治的展望[「特輯 大満州開発号」]『経済往来』7-4、4月1日
- 満州事変と国際連盟『国際法外交雑誌』31-4、4月1日
- 満州委任統治論『国家学会雑誌』46-4、4月1日[『全集』第10巻収録]
- 十字路頭に立つ日本外交[「日本はどうなる?」]『文芸春秋』10-4、4月1日
- 満州の将来[訳]『外交時報』656、4月15日
- 連盟脱退論を排す『国際知識』12-5、5月1日[『全集』第10巻収録]

リットン調査委員団の来朝と我国の対策[「時評 外交」]『文芸春秋』10-8、8月1日
時事問題二つ『家庭』2-9、9月1日
帝国主義諸学派『日本国民』1-5、9月1日
ローザンヌ会議とジュネーヴ軍縮会議[「時評 外交」]『文芸春秋』10-10、9月1日
満洲国承認とその世界的影響『時事新報』9月15、16日
国際連盟は如何に我国に対する乎『工業評論』18-10、9月15日
軍縮会議をめぐる独、仏、英、米の外交『帝国大学新聞』446、9月26日
経済会議と軍縮会議『加州毎日新聞』9月28～30日、10月1～6日
フーヴァー・ドクトリンの政治的批判『外交時報』668、10月1日[『全集』第10巻収録]
国際連盟は如何に我国に対する乎『経済往来』7-11、10月1日
国際法上より観たる満洲国承認『国際知識』12-10、10月1日[『全集』第10巻収録]
国家形成の原理としての民族主義『国際法外交雑誌』31-8、10月1日[『全集』第7巻収録]
内田外相の演説と世界的影響[「時評 外交」]『文芸春秋』10-11、10月1日
満洲国承認と列強の動向『文芸春秋』10-11、10月1日[座談会：矢吹省三、笠原幸雄、岩井寿郎、亀井貫一郎、菅忠雄]
リットン報告書と我が国の立場 聯盟は平和破壊の機関か[10月8日、東京中央放送局講演]『布哇報知』10月8日
リットン報告は如何に矛盾撞着するや『経済往来』7-12、11月1日
リットン報告に於ける解決案の批判[「時論」]『国家学会雑誌』46-11、11月1日[『全集』第10巻収録]
リットン報告書の批判『青年教育』117、11月1日
座談会 大学教授のリットン報告検討『文芸春秋』10-12、11月1日[10月6日(於浪華家) 座談会：土方成美、蟬山政道、松本重治、高柳賢三、上田貞次郎、横田喜三郎]
アメリカの対日政策の今後『家庭』2-12、12月1日
米国の大統領選挙／独逸議会の総選挙／英国政局の展望[「時事三題」]『婦人之友』26-12、12月1日

1933(昭和8)年

国際連盟に対する列国の立場『外交時報』674、1月1日[『全集』第10巻収録]
満洲は如何に帰結するや[「新年号付録 伸びゆく日本の展望 論陣二十人集」]『経済往来』8-1、1月1日
満洲事変と国際連盟『国際法外交雑誌』32-1、1月1日
国際政治事情概観[「一九三二年度海外政治事情」]『国家学会雑誌』47-1、1月1日
満洲事件をめぐる国際連盟の動向『高岡新聞』1月1日
極東モンロー主義を排す『帝国大学新聞』470、3月13日
連盟脱退後の我新国策に就て『中外財界』8-3、3月15日

- 連盟脱退後の我が新対外国策を論ずー連盟脱退より極東平和連盟の建設へー『経済往来』8-4、4月1日
国際連盟の実力的圧迫[「最悪の場合」]『中央公論』48-4、4月1日
極東連盟の建設を提唱す(連盟脱退と今後の我が新対外国策)『外交時報』681、4月15日[『全集』第10巻収録]
連盟総会報告書を検討す『国際評論』2-5、5月1日
極東モンロー主義を排す『青年教育』123、5月1日
和戦の岐路に立つ欧州政局と其の極東政局への影響『馬哇新聞』28952、28953、6月13、16日
我国際政局の動向 一歩誤れば世界大戦『九州日報』6月21日
国際連盟脱退後に於ける国民の覚悟『弘道』494、495、7月1日、8月1日
亜細亜連合か極東連盟か[「時論」]『国家学会雑誌』47-7、7月1日[『全集』第10巻収録]
満州問題と亜細亜モンロー主義『大倉高等商業学校東亜事情研究』13、7月17日[『全集』第10巻収録]
極東連盟の実現性を論ずー松本代議士の批評に答へてー『外交時報』688、8月1日[『全集』第10巻収録]
国際孤立の我が国策ー国際連盟より極東連盟へー『朝鮮及満州』309、8月1日
我国の行くべき途『雄弁』24-8、8月1日
日米関係の改善と仲裁々判条約の緊要『国際知識』13-9、9月1日[『全集』第10巻収録]
連盟脱退後の国際情勢『中央公論』48-9、9月1日[『全集』第10巻収録]
太平洋の危機を認識せよー戦争はなほ近づきつゝあるか?ー『家庭』3-10、10月1日
戦争学説『国家学会雑誌』47-10~12、10月1日、11月1日、12月1日[『全集』第7巻収録]
民族主義の確立とアウトアルキー『国際法外交雑誌』32-9、11月1日[『全集』第7巻収録]
太平洋に於ける平和機構の崩壊と再建『講演』56、11月15日
欧州平和機構の危機『経済往来』8-13、12月1日
国際日本の現実『文芸春秋』11-12、12月1日[座談会：風見章、芦田均、小島精一、高木友三郎、千葉雄次郎、横田喜三郎、筒井潔]
第二華府会議 世界軍縮会議の失敗とその展望『新愛知』12月4~8日
国際問題の回顧と展望[「昭和八年の思い出」]『東京朝日新聞』12月18日

1934(昭和9)年

- 第一ワシントン会議と所謂第二ワシントン会議『国際知識』14-1、1月1日[『全集』第10巻収録]
満州問題をめぐる国際情勢の展開『北陸日日新聞』1月4、7日
最近国際情勢の回顧と展望『外交時報』699、1月15日[『全集』第9巻収録]
日本に対する露米の動き『大北日報』1月27、29、30日
第二華府会議への展望 世界軍縮会議の決裂を再吟味して『国本』14-2、2月1日

第一華府會議と所謂第二華府會議『日本[The Japanese American News]』109、110、3月7、14日[連載第2・3回のみ、第1回掲載は未見]

欧州国際戦線の異状と中欧の危機を語る『経済往来』9-4、4月1日

重畳せる国際条約の展望『朝鮮及満州』317、4月1日

昭和九年度上期国際情勢展望『朝鮮公論』22-4、4月1日

日米関係の展望『外交時報』706、5月1日

クーデンホーフ・カレルギ伯連盟改造案の検討『国際知識』14-5、5月1日[『全集』第9巻収録]

極東をめぐる国際政局『国本』14-5、5月1日

平和と戦争の岐路に立つ世界の概観[「特輯 岐路に立つ世界の情勢」]『経済往来』9-6、6月1日

国家主義と国際主義の闘争[6月15日(於東京帝国大学講堂)]『旬刊講演集』363、6月30日

満州国の不承認主義の漸壞[「週末短言」]『婦人之友』28-7、7月1日

ブラジルの排日移民法[「週末短言」]『婦人之友』28-7、7月1日

東郷元帥の薨去[「週末短言」]『婦人之友』28-7、7月1日

ジュネーブ軍縮会議の大団円[「週末短言」]『婦人之友』28-7、7月1日

欧州国際政治の概観『国際知識』14-8、8月1日

欧州政局の新情勢 独・伊両首相の会見とその影響『国本』14-8、8月1日

モンロー・ドクトリンの起源及び原形に就て『国際法外交雑誌』33-7、9月1日[『全集』第8巻収録]

ロシヤの連盟加入を繞る国際政局の動向『経済往来』9-11、11月1日

一九三五年海軍會議への展望『国際知識』14-11、11月1日[『全集』第10巻収録]

東亞モンロー主義と大亜細亞主義『朝鮮地方行政』13-11、12、11月1日、12月1日

ワシントン条約の廃棄と其の影響『外交時報』719、11月15日[『全集』第10巻収録]

汎大陸主義概説『国際法外交雑誌』33-10、12月1日[『全集』第7巻収録]

満州問題再燃 日本に対する英、米、蘭、三国の抗議『朝鮮公論』22-12、12月1日

満州国の石油統制と門戸開放問題『東洋』37-12、12月1日

1935(昭和10)年

鹿島守之助「世界大戦原因の研究」[「紹介」]『国家学会雑誌』49-1、1月1日

海軍本會議と極東及太平洋問題『月刊維新』2-2、2月1日

一変せる欧州国際関係とドイツの完全孤立『弘道』517、6月1日

理論と事実とを厳密に岐て『受験界』16-7、7月1日

1936(昭和11)年

対伊経済制裁に関する若干の考察『国際知識』16-1、1月1日[『全集』第9巻収録]

- 帝国主義と国際主義との闘争—伊エ戦争の国際政治的考察—『政界往来』7-1、1月1日
 欧州の国際戦線異変 世界を躍らせる英の奇策『福岡日日新聞』1月1日
 世界情勢の回顧と展望『外交時報』748、2月1日
 欧州平和の破壊と建設『国際評論』5-5、5月1日
 世界政局に於ける英米の地位『月刊維新』3-6、6月1日
 対伊経済制裁の教訓[「各人各説」]『時事新報[夕刊]』6月4日
 対伊経済制裁の失敗と欧州政局の動向『外交時報』757、6月15日[『全集』第9巻収録]
 満州国承認論抬頭[「各人各説」]『時事新報[夕刊]』6月27日
 戊辰戦争に於ける中立問題『国家学会雑誌』50-7、7月1日[『全集』第8巻収録]
 “大日本外交文書”[「一日一題」]『読売新聞』7月2日
 ルーズヴェルト大統領の封外政策と来るべき汎米会議『連合情報』1264、7月4日
 連盟総会の悲喜劇[「一日一題」]『読売新聞』7月8日
 支那対外論者の三派[「一日一題」]『読売新聞』7月16日
 国際階級戦の展望[「一日一題」]『読売新聞』7月23日
 明治政府の根本史料『大日本外交文書』[「読書頁」]『東京朝日新聞』7月24日
 内乱と干渉[「一日一題」]『読売新聞』7月30日
 外務省調査部編纂「大日本外交文書」[「紹介」]『国家学会雑誌』50-8、8月1日
 外国留学生の好遇[「各人各説」]『時事新報[夕刊]』8月1日
 外交国策とは何ぞや[「各人各説」]『時事新報[夕刊]』8月28日
 日満新条約と両国関係の将来『国際知識』16-9、9月1日[『全集』第10巻収録]
 明治新政府の成立及承認『国際法外交雑誌』35-7、9月1日[『全集』第8巻収録]
 二種の平和機構[「各人各説」]『時事新報[夕刊]』9月8日
 『条約目録』学振の報告、国際法第一篇[書評]『帝国大学新聞』638、9月14日
 欧州平和は何処へ行く『外交時報』763、9月15日
 日支国交調整の根本問題『福岡日日新聞』10月3～6日
 日支国交調整難[「各人各説」]『時事新報[夕刊]』10月6日
 中華帝国の崩壊と再建『支那』27-11、11月1日[中国語訳『中華帝国之崩潰与再建』東亜同文会研究編纂部、1937年2月10日]
 思想戦と国際戦[「各人各説」]『時事新報[夕刊]』11月18日
 維新史への貢献「大日本外交文書」の意義[「Book」]『帝国大学新聞』648、11月23日
 欧州国際戦線の異状と欧州平和の展望[「ヨロロッパは何処へ行く」]『日本評論』11-12、12月1日
 日独協定の特異性[「各人各説」]『時事新報[夕刊]』12月13日
 An Anglo-Japanese agreement『Contemporary Japan』5-3、12月

1937年(昭和12)年

- 日独協定の本質と其特異性『外交時報』81-1、1月1日[「日独防共協定の本質と其特異性」と改題、『全集』第10巻収録]
- 汎米会議の諸問題と汎米連合の将来『国際知識』17-1、1月1日[『全集』第10巻収録]
- 欧州政局の現状及将来『財政』2-1、1月1日
- 日独協定の反響座談会『文芸春秋』15-1、1月1日[1936年12月5日(於紅葉館)座談会：鹿島守之助、馬場恒吾、河野密、米田実、美濃部亮吉、山榭儀重]
- 修史事業への緒『維新史料綱要』の公刊[「学芸特輯 評者選定厳正著書批判」]『読売新聞』2月25日
- 植民地再分割問題の一考察『国家学会雑誌』51-4、4月1日[『全集』第9巻収録]
- 世界平和の障碍—植民地再分割か資源再分配か—『政界往来』8-5、5月1日
- 太平洋問題と其解決案『外交時報』782、7月1日
- 形式内容両面的の完璧を期せ—外交史の本体に就いて—[文責在記者、試験委員より受験者へ]『受験界』18-7、7月1日
- Das pazifische Problem und die Möglichkeit seiner Lösung『Weltwirtschaftliches Archiv』46-1、7月
- 米国中立法の政治的考察—特に其の国際性と制裁性—toに就て『外交時報』788、10月1日
- 蘇支不侵略条約と米国中立法『中央公論』52-10、10月1日[『全集』第10巻収録]
- 地中海に於ける国際情勢の変動『実業之日本』40-22、11月15日
- 治外法権の撤廃と付属地行政権の委譲 満州国『帝国大学新聞』694、11月15日
- 現代帝国主義の特質『国際法外交雑誌』36-10、12月1日[『全集』第7巻収録]
- 第二次世界戦争は必至なるか『日本評論』12-13、12月1日
- 渦中の西班牙と支那—注目すべきは左右両派の活動—[「回顧と展望 外交」]『京都帝国大学新聞』272、12月5日
- 日英関係の切迫と其の将来『日本評論』12-14、12月5日
- 現下世界外交の動き 現状維持と現状打破の争ひ[12月2日講演大要(於日本女子大学校)]『家庭週報』1374、12月10日

1938年(昭和13)年

- 日支事変と米国の対外政策『外交時報』794、1月1日
- 日支事変の原因と解決『弘道』548、1月1日
- 宣戦問題の国際的観察『中央公論』53-1、1月1日[『全集』第10巻収録]
- 国際政治 左右対立の激化[世界政治経済の動向]『帝国大学新聞』701、1月1日
- 英国の極東政策『民政』12-1、1月1日
- 条約物語『福岡日日新聞』1月1、3、4日
- 条約物語『新愛知』1月3、4日

- 岐路に立つ英国極東政策『神戸新聞』1月5日
日独伊防共協定の将来『日本評論』13-2、1月10日
イギリスの極東政策『北米時事』2月2～5日
転換期の欧州外交 チェンバーレン外交何処へ?『帝国大学新聞』714、3月31日
日支関係と其の解決策『朝鮮及満州』365、4月1日
支那事変と国際協定『法律時報』10-4、4月1日[『全集』第10巻収録]
国際平和機構と我国の立場『外交時報』802、5月1日[『全集』第10巻収録]
転換期に立つ欧州国際政治『新愛知』5月14、15、17日
ナチス・ドイツ対外政策の発展[特輯 続ナチス独逸の研究]『国家学会雑誌』52-7、7月1日
鹿島守之助氏著『帝国外交の基本政策』[読書]『東京朝日新聞』8月15日
戦争責任論争の一考察『国際法外交雑誌』37-9、11月1日
東亜新体制[「革新日本」の大道]『東京日日新聞』11月23～25日
東亜新事態の出現—九国条約を繞る日米闘争—『帝国大学新聞』742、11月28日

1939(昭和14)年

- 新東亜建設と英米の極東政策 英国『神戸新聞』1月1、2日
広東占領と南支に於ける国際争覇戦『国際知識及評論』19-1、1月1日[『全集』第10巻収録]
国際政治概観[「特輯 海外政治の動向」]『国家学会雑誌』53-1、1月1日
九国條約と東亜新事態『大陸』2-1、1月1日
「東亜連盟」の提唱—寿府、九国条約と絶縁せよ—『東方公論』14-1、1月1日
国際関係[「新東亜体制」]『大阪毎日新聞』1月4日
東亜新秩序建設と英国の極東政策『北陸日日新聞』1月11、12日
国際情勢概観(欧米) 根本的危機は依然存続『京都帝国大学新聞』291、1月20日
「東亜に迫る世界の圧力」座談会『文芸春秋』17-3、2月1日[12月26日(於星ヶ丘茶寮) 座談会:清沢淵、伊藤正徳、尾崎秀実、芦田均、志岐守治、松島慶三、丸山政男]
東亜の建設と列強の決意を語る座談会『青年』24-3、3月1日[座談会:和波豊一、富永英三郎、向田金一、山崎靖純、立野儀光、松島慶三、井上源太、萱場四郎]
海南島占領と其の軍事的、国際的意義『太平洋』2-3、3月15日
「戦争と民族問題」座談会『文芸春秋』17-9、5月1日[4月6日(於星ヶ岡茶寮) 座談会:今井登志喜、宇野円空、加田哲二、芦田均、松本信広]
日独伊軍事同盟の目標 ヨーロッパ情勢の見透し『旬刊時事特輯』22、5月21日
転換期に立てる欧州外交『外交時報』829、6月15日
モンロー主義の歴史的発展『国家学会雑誌』53-8、8月1日[『全集』第8巻収録]

独ソ不侵略条約『東京朝日新聞』8月25、26日[『大阪朝日新聞』1939年8月26、27日]
モンロー主義の考察『国際法外交雑誌』38-7、9月1日[『全集』第8巻収録]
欧州大戦と中立『東京朝日新聞』9月7、8日[『大阪朝日新聞』9月7、8日]
独ソ不侵略条約の解剖『時潮』5-9、9月15日
独ソ不可侵条約の締結と其の影響『外交時報』836、10月1日[『全集』第9巻収録]
欧州大戦と米国中立法の発動『国際知識及評論』19-10、10月1日[『全集』第9巻収録]
独・蘇不侵略条約と欧州大戦[1939年9月8日於経済倶楽部午餐会]『経済倶楽部講演』1939年第30輯、
10月31日[『全集』第9巻収録]
欧州戦乱を繞る国際情勢[10月14日講演速記於国民思想研究所月次講座]『国民思想』5-12、12月1日

1940(昭和15)年

新東亜建設の諸条件『支那』31-1、1月1日[『全集』第10巻収録]
英教授著「中華帝国に於ける列国の条約権益」を読み『学燈』44-1、1月20日
通商条約失効後における日米関係の新段階『帝国大学新聞』796、1月29日
通商条約失効と日米関係『東邦経済』10-3、3月1日
通商条約失効と日米関係『海之世界』34-4、4月1日
*アメリカは平和提唱をするか『国際評論』5-4、4月1日
東亜に於ける旧体制と新体制[時論]『国際法外交雑誌』39-4、4月1日[『全集』第10巻収録]
世界大戦より欧州戦争へ『歴史教育』15-1、4月1日
和蘭は何処へ行く『週刊朝日』37-24、6月2日
欧州戦乱座談会『週刊朝日』37-25、6月9日[5月22日(於藍水)座談会：匝瑳胤次、秋山邦雄、清沢泷、
丸山政男、桜木俊晃]
三民主義の批判『東亜学』2、6月18日[『全集』第10巻収録]
欧州戦況の現在及将来『経済知識』24-1、7月1日
世界新平和の形相『帝国大学新聞』818、7月1日
三民主義の批判『刑務界』25-8、9、7月25日、8月20日
歴史雑談『改造』22-14、8月1日[座談会：尾佐竹猛、藤井甚太郎、村上堅固、和田清]
太平洋新秩序『日本評論』15-8、8月1日
東亜連盟概論—三たび東亜連盟を説く—『外交時報』857、8月15日[『全集』第10巻収録]
英国国民性と其の外交『公民講座』191、10月1日
コーデル・ハルのモンロー主義観[時論]『国際法外交雑誌』39-8、10月1日[『全集』第9巻収録]
日独伊三国盟約の特色と意義[特別寄稿 三国同盟後の我が外交・経済]『東洋経済新報』1941、10月5
日

和蘭本国及び蘭領印度の国際的地位『太平洋』3-10、10月25日[『全集』第10巻収録]

日独伊三国同盟と国際情勢『講演』488、11月20日[『全集』第10巻収録]

三国同盟と帝国の前途『海運報国』2-11、11月25日

日華基本條約と国民政府の承認『民政』14-12、12月1日

日華基本條約と国民政府の承認『報知新聞』12月1～3日

待望の書出ず 太平洋協会編「仏領印度支那」[「読書」]『東京日日新聞』12月22日

1941(昭和16)年

時局座談会 A 新体制の諸問題『福岡日日新聞』1月1、3、5～7、9～12日[12月21日(於虎の門晩翠軒)座談会：有馬頼寧、船田中、関根郡平、秋山邦雄、今井登志喜、飯田清三、馬場恒吾、岩淵辰雄]

時局座談会 B 日本を繞る国際情勢『福岡日日新聞』1月13～16日[12月21日(於虎の門晩翠軒)座談会：有馬頼寧、船田中、関根郡平、秋山邦雄、今井登志喜、飯田清三、馬場恒吾、岩淵辰雄]

近東、バルカンの近世国際紛争史『帝国大学新聞』842、2月3日

ルーズヴェルト大統領の援英政策の発展[「時論」]『国際法外交雑誌』40-3、3月1日[『全集』第9巻収録]

汎米ブロック論『改造』23-6、3月2日

日ソ中立條約の意義『帝国大学新聞』853、4月21日

事実上の宣戦布告[「米大統領の炉辺談話」]『新愛知』5月30日

事実上の宣戦布告 炉辺談話に就て『河北新報』5月30日

米国大統領の底意『福岡日日新聞』5月30、31日

ル大統領炉辺談話『北海タイムス』5月30、31日

ドイツの対ソ宣戦と欧州戦局の一大転換『新愛知』6月24日

欧州戦局の大転換『北海タイムス』6月24日

戦争と政治との関係『国際法外交雑誌』40-6、7月1日[『全集』第7巻収録]

世界はどうなる『週刊朝日』40-4[臨時増刊]、7月15日[座談会：飯島幡司、今井登志喜、大西齊、杉山平助、恒川真]

米国の戦闘開始の号令『新愛知』9月15日

空文に帰した中立法 仮面をぬぐる大統領の援英政策『帝国大学新聞』870、9月22日

参戦途上の米国『新愛知[夕刊]』10月17日

揺がぬ団結性“波瀾”の度に一路強化[談]『東京朝日新聞』11月26日

米国の中立法遂に死滅[「アメリカを衝く」]『公民講座』205、12月1日

わが宣戦と開戦責任問題『東京朝日新聞』12月25～27日

1942(昭和 17)年

- 欧州外交と政治的イデオロギー『国際法外交雑誌』41-1、3、8、1月1日、3月1日、8月1日[『全集』第8巻収録]
- アジアの解放と復興 今やその時は来れり『合同新聞』1月5日
- 世界新秩序と大地域主義『地政学』1-1、1月15日
- マニラ市の陥落と米西戦争当時の回顧[「時評」]『国際法外交雑誌』41-2、2月1日[『全集』第10巻収録]
- 英、新嘉坡を失はば 米、世界制覇の野望も潰ゆ『合同新聞[夕刊]』2月16日
- 昭南島陥落の世界史的意義[「新愛知[夕刊]』2月18、20日[第2回掲載表題は「新嘉坡陥落の世界史的意義」]
- 大東亜戦争の理念『受験界』23-2、3月1日
- 大東亜戦争の開戦外交について[「雑報 法理研究会記事」中の講演要旨]『法学協会雑誌』60-3、3月1日
- シンガポール陥落とその意義[「時評」]『国際法外交雑誌』41-4、4月1日
- 印度国民運動と参戦問題[「時評」]『国際法外交雑誌』41-6、6月1日
- 英米ソ関係の新発展『外交時報』903、7月15日[『全集』第9巻収録]
- La politica estera del Giappone moderno[現代日本の外交]『Aspetti del Giappone[日本学術文化研究]』1、11月15日
- 大東亜主義の政治原理『日本諸学』2、11月20日
- 大東亜戦争一周年と世界新秩序の建設『イタリア』2-12、12月1日
- 大陸連合体建設の基礎条件『国際法外交雑誌』41-12、12月1日[『全集』第10巻収録]
- 開戦の責任に関する米英側の主張を衝く『東京新聞』12月2日

1943(昭和 18)年

- 大東亜戦争と開戦責任『地政学』2-1、1月15日
- 米英の戦争目的を衝く『合同新聞』4月24、25、27日
- 一般外交方針[「時評 第八一議会の外交・国際法問題の解説」]『国際法外交雑誌』42-5、5月1日
- 英米の幻想・戦後案を衝く『毎日新聞』5月3日
- 立先生と外交史学『法律時報』15-7、7月1日
- 克明な涉獵、研究 山本茂氏著『条約改正史』[書評]『帝国大学新聞』960、10月11日
- 大東亜政治の指導的理念『日本評論』18-11、11月1日
- 貫ぬく血族的愛情 大東亜宣言の理念を語る『読売新聞[夕刊]』11月6日
- 新時代の国際原則[「大東亜宣言の五原則(二) 独立親和」]『毎日新聞』11月10日
- [「戦陣に薦むる書」]『帝国大学新聞』965、11月22日
- カイロ会談の夢を破碎す 分裂せしめて野望達成へ『朝日新聞』12月11日

1944(昭和 19)年

- 大東亜会議と大東亜共同宣言[時評]『国際法外交雑誌』43-1、1月1日[『全集』第10巻収録]
条約改正[「特輯 近代日本の成立(二)」]『国家学会雑誌』58-3、3月1日
第八十四議会に於ける一般外交方針[「時評」]『国際法外交雑誌』43-6、6月1日
[「出陣・動の学徒に薦む」]『大学新聞』8、9月21日
ルーマニア及フィンランドの休戦[「時評」]『国際法外交雑誌』43-12、12月1日[『全集』第10巻収録]
反枢軸国の戦後機構案を批判す『大陸東洋経済』27、12月28日[11月25日座談会(於東京):清沢湧、横田喜三郎、高垣寅次郎、綿野脩三]

1946(昭和 21)年

- 岡義武著『近代欧州政治史』明晰なる考証 欧州政治の鳥瞰図『日本読書新聞』341、4月1日
[「何を読むべきか?」]『帝国大学新聞』993、8月13日
欧洲協調の国際政治学的考察『国家学会雑誌』60-8、9、8月1日、9月1日

1947(昭和 22)年

- 国際連合と世界国家『世界国家』1、1月1日[11月14日座談会:堀川謙介、P・Gプライス、賀川豊彦]
拒否権問答『世界国家』2、2月1日[岩間松太郎によるインタビュー]
世界平和と国際連合『経済』1-3、4月1日
黙しては道立たず『帝国大学新聞』1024、5月1日
世界平和思想の史的概観[「特輯 世界国家と恒久平和」]『真日本』2-3、6月1日

1948(昭和 23)年

- 講和会議の展望『創造』18-1、1月10日
世界平和と国際警察制度『世界国家』2-1、2月1日[座談会:帆足理一郎、賀川豊彦]
国民の性格と性格の国民『経済』2-8、8月1日

1949(昭和 24)年

- 国際警察の話『浜のまもり』1-5、9月5日

1950(昭和 25)年

- 一方的命令から平和は生れず[「講和会議にかく望む」]『東洋経済新報』2453、12月16日[「講和会議にかく望む—一方的命令から平和は生れず—」と改題、『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

1951(昭和 26)年

- 対日講和と日米防衛協定—マッカーサー元帥解任の影響—『明窓』2-3、6月1日[『全集』第10巻収録]
- マッカーサー旋風とその将来『明窓』2-4、7月1日[『全集』第10巻収録]
- ソ連の世界戦略『明窓』2-5、8月1日[『全集』第9巻収録]
- 休戦談判とその後に来るもの『明窓』2-6、9月1日[『全集』第10巻収録]
- 国際連合の将来—変化する侵略制裁の方法—『政界往来』17-2、11月1日
- 駐兵承認は不当 形式論理的な自衛権論[「法学」]『早稲田大学新聞』113、11月11日
- 日米安全保障条約は日本の安全を保障するか『改造』32-13、12月1日[座談会：杉原荒太、猪俣浩三、名和統一、原勝]
- 行政協定の焦点[「解説と批判」]『改造』32-13、12月1日[『全集』第10巻収録]

1952(昭和 27)年

- 朝鮮休戦の世界政治的意義『改造』33-3、2月1日
- 行政協定の問題点を衝く『大阪新聞』3月1~3日[座談会：蠟山政道、河相達夫、清瀬一郎]
- まず、沖縄・小笠原を返せ—ヤルタ協定保留決議と千島、南樺太の現状—『日本週報』200、3月1日
[「ヤルタ協定保留決議と領土問題(まず、沖縄・小笠原を返せ—)」と改題、『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]
- 行政協定の実態を衝く『改造』33-5、4月1日[鼎談：黒田寿男、岡崎勝男]
- 日米行政協定と治外法権『東洋経済新報』2518、4月5日[『全集』第10巻収録]
- いわゆる“神川証言”—行政協定に対する一つの批判—『週刊朝日』57-15、4月13日[『全集』第10巻収録]
- 『マッカーサー帝国』解消論『改造』33-7、5月1日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]
- 国際政治の現状と日本の立場『東邦経済』13-6、6月1日
- 与えられた憲法は守らなくてもよいか『郵政』4-6、6月1日
- 半独立日本の外交『改造』33-11、8月1日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]
- シーレー博士の日本人への忠言『文芸春秋』30-11、8月1日[『日本政治の再出発』、『全集』第6巻収録]
- 全責任は「吉田書簡」に[「世界の軍事植民地化す危険あり」]『日本週報』220、9月5日
- 新内閣への要望『実業之日本』55-18、9月15日[「ぬき打ち解散と来るべき新内閣への要望」と改題、『全集』第10巻収録]
- 「吉田書簡」と英水兵事件[「独立のない日本」]『改造』33-14、10月1日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]
- 「吉田外交」の性格とその必然的行詰『経済往来』4-9、10月1日[『全集』第10巻収録]
- 祖国を十字架にかけたのは誰か『改造』33-15、10月15日[座談会：岩淵辰雄、三宅晴暉、大宅壮一]
- マッカーサー憲法を改廃せよ『日本週報』225、10月15日

国連軍の性格と国連軍協定『外交時報』950、11月1日[『全集』第10巻収録]

ソ連の新平和攻勢『改造』33-18、12月1日[座談会：山之内一郎、尾形昭二、加瀬俊一]

マッカーサー憲法の失効－新民主憲法制定の急售－『政治公論』1、12月1日

On the U.N. negotiators' statement『Nippon Times』12月3日

1953(昭和28)年

新共和党政権の対外政策とその批判『外交時報』952、1月1日[『全集』第9巻収録]

“苦待”されるアイク 果して選挙の公約を実行できるか『改造』34-1、1月1日

新日本外交の前途『実業之日本』56-1、1月1日[『全集』第10巻収録]

憲法は非合法に破毀されていないか『中央公論』68-1、1月1日[討議：戒能通孝、佐藤昌三、田中松次郎]

日本外交の新しい道『西日本新聞』1月10日

「新しい日本外交」の出發[「国民外交討論会 世界の現実と日本」]『改造』34-2、2月1日[討議：横田喜三郎、堀内謙介、加納久朗、石井康、大橋忠一、斉藤音次、有田八郎]

アイク・ダレス外交は何処へ行く『経済往来』5-3、3月1日

独裁制に重大危機 スターリンの死去米ソ戦争を促進[「月曜評壇」]『西日本新聞』3月9日

ソ連の平和攻勢と日本[「日曜評論」]『読売新聞』4月5日[ソ連の平和攻勢－大戦の禍根は依然残る－『大阪読売新聞』4月5日][「ソ連の平和攻勢と日本－表面の波動に一喜一憂する勿れ－」と題して『時事論文の事典』(大蔵出版、1955年)収録]

真実を知らさぬ政治[「政治と道義」]『毎日新聞』4月7日

日本民族よ、どこへ行く－亡国滅種の危局と来るべき総選挙－『政界往来』19-5、5月1日

*民族滅亡の危機に立ちて『日本政経公論』2-5、5月

朝鮮休戦と台湾の信託統治『改造』34-7、6月1日

日本の商売仇 “第四英帝国”『日本週報』248、6月5日

Commodore Perry's expedition and the growth of a modern Japan『Contemporary Japan』22-4-6、[6月]

断じてあり得ぬ[「MSA と派兵義務」]『読売新聞』7月9日

対米依存を衝く『改造』34-10、8月1日[『日本外交の再出發』、『全集』第5巻収録]

米韓条約の意義と影響[「論壇」]『朝日新聞』8月10日

新軍備の民主的コントロール『読売新聞』8月13日[『日本外交の再出發』、『全集』第5巻収録]

窮地に立つ吉田内閣 行詰ったゴマカシ軍備[「中国論壇」]『中国新聞』8月17日

ゴマカシ軍縮の行詰り[「北日本論壇」]『北日本新聞』8月20日

李ライン問題をどう打開するか『東洋経済新報』2595、10月3日[座談会：天野郡治、川上健三、鈴木九平、田中道知、田村幸策、山崎喜之助、吉田隆]

*講和条約・安保条約・行政協定の厳正批判『日本政経公論』2-10、10月[『日本外交の再出發』、『全集』

第5巻収録]

1954(昭和29)年

集団安全保障の現実的意義『世潮』1-1、2月1日

水爆とアメリカの責任 原子力国際管理の困難について『改造』35-5、5月1日

四苦八苦のアイク・ダレス外交ーダレスの“安全保障と平和の政策”の正体『経済往来』6-7、7月1日[『全集』第9巻収録]

新日本の外交コースー「中立論」と「第三勢力論」の批判ー『世界と日本』7、7月号[『全集』第10巻収録]

“非武装中立”は空論 愚劣な両社会党の観念[「月曜評壇」]『西日本新聞』8月16日

逆行する孤児日本『中央公論』69-9、9月1日

外務省を欠席裁判するー吉田独裁外交を斬る！ー『文芸春秋』32-15、10月1日[座談会：佐々木四郎、杉原荒太、浦松佐美太郎、曾祢益]

中ソとの国交回復には『中部日本新聞』11月1～3日[座談会：加納久朗、須磨弥吉郎、田中三男]

1955(昭和30)年

戦争終結宣言が先決[談]『読売新聞』2月7日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

ロカルノ方式か二重保障政策かー東南アジアと日本の安全保障ー『世界と日本』14、2月号[『全集』第10巻収録]

「自主独立外交」への覚悟 外相訪米の拒絶[「時評」]『読売新聞』4月6日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

「民族領土」の要求は当然[「日ソ交渉に何を望むか」]『東洋経済新報』2679、5月28日[『全集』第10巻収録]

琉球問題を解決せよ『西日本新聞』6月4日

民主主義の正道を歩もう “戦争ボケ”と“占領ボケ”を一掃[「論壇」]『朝日新聞』7月8日[『日本政治の再出発』、『全集』第6巻収録]

民主主義的政治教育を徹底せよー「自主憲法期成同盟」発会式における挨拶ー『民主政治』1-1、7月10日[『日本政治の再出発』、『全集』第6巻収録]

自立憲法への論議行え 全く他律的“マッカーサー憲法”[「時評」]『読売新聞』7月12日

日ソ両国の提案とロンドン交渉の前途『世界と日本』20、8月号[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

*占領統治法としてのマッカーサー憲法『民族と政治』3、[9月1日]

千島、樺太の返還と日本人の覚悟『日本週報』339、9月5日

日ソ交渉の問題点『自警』37-10、10月1日

敗戦か終戦か[巻頭言]『民主政治』1-4、10月10日

領土の戦前状態回復主義『新民』6-12、12月1日

政治と戦争との関係『政経論叢』24-3、12月20日

1956(昭和31)年

新春雑談 日本の政治を診断する『民主政治』2-1、1月10日[出席者：矢部貞治、弓家七郎、大西邦敏]

真の平和憲法、真の民主憲法とは何か[自主憲法期成第演説集]『民主政治』2-2・3、2月25日

敗戦憲法の性格[「平和憲法の再検討」]『東邦経済』26-3、3月1日

無条件降伏の意味するところー日本国憲法の性格を理解するためにー『民主政治』2-5、5月10日

ロンドン方式と超党外交ー米英に学び両党一致せよー『東京新聞』5月19日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

米、自らの原則破る 琉球人の自決権を無視[「時評」]『読売新聞』6月29日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

自主憲法制定の必要とその性格『日本及日本人』1365、7月1日

千島・沖繩問題と日本外交の血路『日本週報』373、7月15日

自主憲法の必要と方向[講演概要]『自由と正義』7-8、8月1日

わが民族性の長短とその世界史的使命ー日本人の欠点についてー『民主政治』2-8、9、8月10日、9月10日

わが作戦上の違算と失態 日ソ交渉をやり直せ『東京新聞』8月13日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

日ソ交渉の行くえー日ソ国交回復に唯一つ残された道『新民』7-9、9月1日

憲法改正のために勇敢に戦えー自由民主党に望むー『民族と政治』15、9月1日[『日本政治の再出発』、『全集』第6巻収録]

国際政治の新情勢ー人類史最大のジレンマー『海外事情』4-9、9月5日[『全集』第9巻収録]

占領政策総決算『民主政治』2-9、9月10日[対談：笹山忠夫]

米回答の示唆するもの『東京新聞』9月14日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

国際政治とデモクラシー『日本及日本人』1368、10月1日[『全集』第7巻収録]

日ソ外交 今後の課題『東京新聞』10月20～23日[座談会：天羽英二、杉原荒太]

真珠王御木本と本居宣長[「郷土の偉人 三重県」]『日本週報』385、10月25日

日ソ外交 今後の課題『講演時報』855、11月8日[座談会：天羽英二、杉原荒太]

ナセルの冒険[「動乱をかく考える」]『文芸春秋』34-13、11月20日

エジプト戦争、ハンガリー動乱の教訓『民主政治』2-12、12月10日

1957(昭和32)年

神川彦松博士の改憲論[「日米安保条約改廃をめぐる諸問題」]『読売新聞』3月19日[「自主外交を阻むもの(神川彦松博士の改憲論)」と題して、読売新聞社政治部編『太平洋の鎖 日米安保条約の改廃』(南方書店1957年6月30日収録)]

“マッカーサー建国記念日”祝典を排す『民主政治』3-4、4月10日[『日本政治の再出発』、『全集』第6巻収録]

創刊の挨拶『季刊国際政治』1、5月1日

戦争のリアリティと平和のユートピアー戦争と平和の研究序説『季刊国際政治』1、5月1日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

核実験禁止提訴への道『東京新聞』5月5日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

治安維持に軍隊を一真の平和民主憲法をつくろうー[「新憲法施行十周年を迎えて 神川・末川両氏が究明する現行憲法の問題点」]『教育学術新聞』89、5月6日

世界的強国から無条件降伏までー国際政治学的観点よりするわが国外交の批判ー『政経論叢』26-1、6月15日

「日本国憲法」の真性格と自主憲法の必然性ーそれは国際政治的考察をしてはじめて理解できるー『季刊外政』6、8月1日[『日本政治の再出発』、『全集』第6巻収録]

日本外交へのプロレゴメナーわが対外政策の分析、批判および構想『季刊国際政治』2、8月1日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

憲法の性格と内容ー二つの問題を混同するなー『東京新聞』9月21日

朝鮮の永久中立 中立の旧い型と新しい型『 코리아評論』1-2、10月15日

近代国際政治史における日本ー近代日本外交史へのプロレゴメナー『季刊国際政治』3、10月20日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

1958(昭和33)年

現代国際政治の基礎構造ー日本外交の国際的背景『季刊国際政治』4、2月5日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

成果十分ではないが国力相応の線漸進の形[「岸内閣の功罪 外交」]『東京新聞』4月24日[岸内閣の外交批判]『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

日中貿易協定における国際法的・政治的諸問題『経済往来』10-5、5月1日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

国際平和の条件は変った 宇宙時代における安全保障と対外政策『民主戦線』3-5、5月10日

国際共産主義運動に連なる護憲運動の正体[「嵐を呼ぶ”憲法改正”」]『日本週報』448、6月25日[共同執筆：田畑巖穂]

憲法問題研究会の発足にあたっての疑問『民主戦線』1-4、8月10日[『日本政治の再出発』、『全集』第6巻収録]

日本外交の背景と基本路線『民主戦線』1-5、9月10日[7月14日座談会(於日本倶楽部)：江尻進、久住忠男、坂西志保、蒔沢嘉雄]

悲観すべき安保条約の改訂『日本週報』460、10月5日

1959(昭和34)年

二つの日本[巻頭言]『民主戦線』1-9、1月10日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

安保条約改定へ国論を統一せよー日米新条約の性格と諸条件ー『民主戦線』2-2、2月10日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

「新鎖国主義」の流行[「随筆」]『政界往来』25-3、3月10日

伊達裁判は行政権・立法権の干犯[巻頭言]『民主戦線』2-5、5月10日

マッカーサー憲法制定史上の諸問題と高柳報告批判『民主戦線』2-5～12、5月10日、6月10日、7月10日、8月10日、9月10日、10月10日、11月10日、12月10日[『日本政治の再出発』、『全集』第6巻収録]

新しい型の賠償[「随筆」]『週刊明星』2-23、6月14日

裁判所に違憲審査権はないー砂川判決に対する批判『月刊政治』90、7月8日[「砂川判決」に対する批判]と改題、『日本政治の再出発』、『全集』第6巻収録]

幕末維新史の見方『法政史学』12、10月10日

現代政治変貌の分析 “集団の噴出” の掘り下げ[「一九五九年展望 動向収獲 政治」]『週刊読書人』305、12月21日

核武装論の底流[「時局討論」]『社会人』128、12月[討論：林克也、木村篤太郎、堀越貞三、服部卓四郎]

1960(昭和35)年

安保改定反対は敗北主義である[「安保改定推進のために」]『経済時代』25-1、1月1日

米の典型的“予防戦争”争えない日本への強要証明 大鷹正次郎著『第二次大戦責任論』『愛媛新聞』1月12日

One hundred years across the Pacific 『Contemporary Japan』26-3、3月

創刊のあいさつ『国際問題』1、4月30日

頂上会談の後に来るものー六〇年代のディレンマー[巻頭言]『国際問題』2、5月30日

安保改定後のわが国際的地位[巻頭言]『国際問題』3、6月30日

議会政治の破壊者は誰か[巻頭言]『民主政治』3-7、7月10日

宣伝の武器としての“軍備撤廃”[巻頭言]『国際問題』4、7月30日

核時代における国際政治ー政治・経済・軍事の三大革命と国際政治の正しい認識ー[「国際政治評論」]『教育学術新聞』228、229、8月8、15日

“民主・中立” 政権とは何かーその意味と実体ー[巻頭言]『国際問題』5、8月30日

中ソ論争の意味するものー両者の主張に真の矛盾はないー[巻頭言]『国際問題』6、9月30日

植民地全廃宣言をソ連に適用せよ[巻頭言]『国際問題』7、10月30日

四政党の選挙綱領をよみてー社会党・共産党の外交・防衛綱領の批判ー[巻頭言]『国際問題』8、11月30日

1961(昭和36)年

一九六一年頭の国際展望ー国際政治の予見の仕方についてー[巻頭言]『国際問題』10、1月20日

ケネディ新政権と世界平和－ケネディ・フルシチョフの世界観の対立－[巻頭言]『国際問題』11、2月20日

米ソの経済競争力の意味するもの[巻頭言]『国際問題』12、3月15日

国連中心主義とは何のことか－"海外派兵"と国連制裁力、完全軍備撤廃との関連－[巻頭言]『国際問題』13、4月20日

フルシチョフの戦争観－正統マルクス・レーニン主義戦争理論の歪曲－[巻頭言]『国際問題』14、5月20日

国連と日本『国際問題』14、5月20日[座談会：大平善梧、西村熊雄、小幡操、寺沢一]

地政治学から宇宙政治学へ－人間宇宙飛行の開始の示唆するもの－[巻頭言]『国際問題』15、6月15日

両巨頭会談の歴史的意義－両者の世界観・世界政治構図の対照性を浮彫りにする－[巻頭言]『国際問題』16、7月15日

ソ連・北鮮軍事同盟の狙いは何か－直接はベルリン危機にそなえる構えである－[巻頭言]『国際問題』17、8月15日

ソ連共産党新綱領の意味するもの－偉大な“宣伝的・煽動的資料”である－[巻頭言]『国際問題』18、9月15日

ソ連核実験再開と"平和共存"の放棄－ソ連は断固、戦争政策の決定、ベルリン・ドイツ問題の解決に踏みきった－[巻頭言]『国際問題』19、10月15日

戦争か話し合いか－戦争政策には戦争政策で対抗しなければ互角の話し合いはできない－[巻頭言]『国際問題』20、11月15日

ソ連共産党大会とその後にきたるもの[巻頭言]『国際問題』21、12月15日

自主憲法制定の主論点『世界と議会』7、12月15日

1962(昭和37)年

1962年頭の国際展望『国際問題』22、1月15日

孔秋泉著「宇宙時代における国際政治の動的考察」[「書評」]『世界週報』43-10、3月6日

参議院制度改革の提唱－私の参議院モデルとその考え方－『経済往来』14-6、6月1日

憲法改正の基本的論議『民族と政治』85、7月1日[6月26日対談：中谷武世]

わが郷土の偉人[「随想」]『解説政府の窓』6-20[通巻165]、10月15日

再び憲法と自衛隊を聞く[インタビュー]『朝雲』469、10月25日

高柳案を衝く[「選挙民権論(高柳案)批判」]『世界と議会』18、11月15日

1963(昭和38)年

新しく作り直す 解釈と運用では日蔭者[「憲法と自衛隊」]『国防』12-1、1月1日

わが郷土の偉人『心の花』67-1、1月1日

故信夫淳平博士追悼の辞『季刊国際政治』21、4月25日

- 憲法改正問題と国民的立場[「内閣憲法調査会の最終段階に際して」]『民族と政治』96、6月1日
- 道の上に[「竹柏百首批評集 竹柏百首に寄す」]『心の花』67-7、7月1日
- 憲法調査会六年の無定見を衝く－調査会の設置は無意義であった－『政界往来』29-8、8月10日
- 自主憲法運動の本質[「自主憲法制定への具体策」]『経済時代』28-10、10月1日
- 憲法改正と政党の責任『民族と政治』100、10月1日
- 憲法問題の方向－来年三月答申をまえに－『潮』42、12月1日[座談会：真野毅、潮田江次、中曾根康弘、戸川猪佐武]
- ケネディー大統領の勇ましき生と死[「追悼の辞」]『国際問題』45、12月15日

1964(昭和 39)年

- 憲法調査会の功罪『ジュリスト』289、1月1日[座談会：蟬山政道、高柳賢三、宮沢俊義、高田元三郎、清宮四郎][『憲法改正論』<文献選集日本国憲法 13>(三省堂、1977年)収録]
- 最終段階の憲法調査会と憲法改正問題『民族と政治』104、2月1日[1月22日座談会：大西邦敏、稲葉修、中谷武世]
- 日米合作論と幣原説を駁す[「憲法改定はなぜ必要か」]『経済時代』29-4、4月1日
- 国際連盟における日本と国際連合における日本『季刊国際政治』24、4月5日[『全集』第10巻収録]
- 占領政治の本質とマッカーサー憲法－日本弱体化のための五D政策の実態－『民族と政治』107、5月1日[4月11日対談：中谷武世]
- 憲法をどう改正するか マッカーサー憲法擁護の占領ボケから脱却せよ『政界往来』30-5、5月10日
- 国連・世界・日本－真の平和の担い手・国連と日本の進むべき途は－『経済往来』16-7、7月1日
- 憲法調査会の審議を終えて－現行マッカーサー憲法の改廃と自主憲法の制定が日本国完全独立の大前提『民族と政治』110、8月1日

1965(昭和 40)年

- 佐藤内閣の歴史的使命－占領継続内閣的性格からの脱却とアジア安定のための自主独立外交の推進『民族と政治』115、1月1日
- 中国問題をどう打開するか『民族と政治』115、1月1日[座談会：松本俊一、木村武雄、清水薫三、中保与作、中谷武世]
- 日米共同声明の検討『民族と政治』116、2月1日
- 日本国際政治学会・太平洋戦争原因研究部編「太平洋戦争への道」『日本学士院紀要』23-1、3月12日
- 日韓国交正常化への前進と基本条約の仮調印『民族と政治』118、4月1日
- ベトナム問題に対処する日本政府の覚悟－問題自体の複雑性と日本の立場の複雑性『民族と政治』119、5月1日
- 同郷の偉人罇堂翁を憶う『世界と議会』48、5月15日
- 中共の核実験と世界政治『民族と政治』120、6月1日

日韓条約の批判の批判『民族と政治』123、9月1日[『全集』第10巻収録]

国際政治学の課題と現状[「特集・現代政治学の課題」]『東洋学術研究』4-5、9月1日[『全集』第7巻収録]

日韓批准国会を顧みて一乱闘国会の主たる責任は「法の支配」「議会政治のルール」を無視して批准阻阻止を敢行せんとする野党にある一『民族と政治』126、12月1日

1966(昭和41)年

日ソ正式講和条約の締結は可能か一可能でもなく、また必要でもない、日ソ講和条約はすでに存在している一『民族と政治』128、2月1日

我が安全保障と「核のカサ」の問題一今日はいかなる国家も核の威圧またはカサの下に立つ一『民族と政治』129、3月1日

「戦争と平和」[「研究ノート」]『朝日新聞[夕刊]』3月4日

山田先生と私[「山田三良先生を偲ぶ」]『法華』52-4、4月8日

「日米安保体制の諸問題について」の外務省声明に関する批判『民族と政治』131、5月1日

七〇年の世界情勢と日本の危機『日本及日本人』1437、6月1日

建国記念日は建国の日とせよ『民族と政治』134、8月1日

一人一業[「500字提言」]『PHP』220、9月1日[『明日は今日よりも』(PHP研究所、1971年4月10日)収録]

外交史学から国際政治史学へ一国際政治学と国際政治史学の開拓・樹立について一『国士館大学政経論叢』5、9月25日[『全集』第8巻収録]

1967(昭和42)年

沖縄教育権返還問題と日米関係一アメリカの沖縄政策批判一『民族と政治』139、1月1日

核拡散防止条約は国際政治の大革命一全世界は米ソ両頭世界政府の属邦と化す一『民族と政治』141、3月1日[「核拡散防止条約と日本」と改題『全集』第10巻収録]

わが国際政治学の生立ちについて『日本学士院紀要』25-1、3月13日[『全集』第7巻収録]

核拡散防止条約は時期尚早一わが国は軽卒にこの条約に調印すべきでない一『民族と政治』143、5月1日

議会政治確立への道一わが政局の前途を憂う『経済時代』32-5、6月1日

戦後の領土問題の解決と日本民族の覚悟 わが「民族領土」の一片も断じて割譲できない『民族と政治』147、9月1日

佐藤総理訪米の成果について一沖縄問題は日米間の問題でなく我が国内問題だ一『民族と政治』150、12月1日

1968(昭和43)年

わが安全保障政策の確立一わが民族の核アレルギー一症と間歇的鎖国病とを退治せよ一『民族と政治』152、

2月1日

安全保障体制と憲法問題－倉石発言に関連して－『民族と政治』153、3月1日[2月15日対談：船田中]
北方領土問題の国際政治的考察[「特集 北方領土を奪還しよう」]『日本及日本人』1461、5月1日[『全集』
第10巻収録]

ベトナム和平交渉の将来－休戦協定と政治協定とは不可分－『民族と政治』155、5月1日

敵は益友『青淵』231、6月1日

核拡散防止条約の将来とわが新核国策の樹立－わが国がこの条約に賛成し調印することには不賛成だ－
『民族と政治』157、7月1日[『全集』第10巻収録]

アメリカ大統領選挙戦とベトナム戦争－民主党政権が続いてもベトナム問題の解決は容易ではない－『民
族と政治』159、9月1日

ニクソン政権の出現とその対外政策－外交上超党派の伝統あるアメリカには政権の交代により対外政策
にさしたる変化なし『民族と政治』162、12月1日

1969(昭和44)年

わが北方領土と南方領土の国際政治的考察－北方領土が核基地たる間は南方領土も然らざるを得ない－
『外交時報』1062、4月1日[『全集』第10巻収録、『郷友』15-8、8月1日に抄録]

民族主義、国際主義、世界主義の考察『国士館大学政経論叢』10、6月25日[『全集』第7巻収録]

スリかわった危機の正体－争点は「安保」から「沖縄」へ「失地回復」から「基地のあり方」へ[「特集七〇年闘
争への臨床的処方」]『日本及日本人』1475、7月1日

真日本的・世界的イデオロギーを提唱せよ－日本弘道会の新使命－『弘道』813、11月1日

1970(昭和45)年

一九七〇年代の世界と日本－自主独立外交の時代来る－『民族と政治』176、2月1日

三人の恩師[「随想」]『自由』12-3、3月1日

ソ連の原爆威嚇外交 ソ連の爆撃訓練は北方領土問題、日米共同声明に対する威嚇だ『民族と政治』179、
5月1日

インドシナ戦争の重大段階とわが国の運命－わが国と東亜大陸対岸との関係の国際政治的考察『外交時
報』1075、6月1日[『全集』第10巻収録]

国際政治学からみた民族主義、国際主義、世界主義『日本学士院紀要』28-2、6月12日

七〇年代のわが対外国策－“軍国主義”呼ばわりの悪宣伝を排す－『民族と政治』185、186、11月1日、
12月1日

太平洋文明と太平洋共同体序論『国士館大学政経論叢』13、11月25日

1971(昭和46)年

自主的改憲か造反的改憲か－一九七〇年代は、この二つの改憲運動対決の秋－『民族と政治』188、2月1
日

太平洋文化時代と日本文化『民族と政治』192～194、6月1日、7月1日、8月1日

国際政治の現実と中国対策の転換『民族と政治』195、9月1日

東亜国際政治の変局と日中問題－孤立無援でわが国が「日中問題」に取組めば無条件降伏とわが国の左翼革命以外に途はない－『外交時報』1089、10月1日

世界の犬勢と日中問題『弘道』833、12月1日

1972(昭和 47)年

極東三頭協調体制下の日本－政治的軍事的に小国たる日本はこの体制の主体ではなく、単なる客体であり、アメリカ寄りの二重保障政策を採る外ない－『民族と政治』201、3月1日

日本国際政治史よりみた日本民族の起源序説『国士館大学政経論叢』16、18、6月25日、**1973年**6月25日

日中復交問題の国際法的考察－日中復交は、サンフランシスコ和約と日華和約の基礎に立ち国際法上「新政府の承認」の原則に準拠すべし－『民族と政治』205、7月1日

四人の先生[「随想」]『自由』14・9、9月1日

日中復交問題の国際政治的考察－台湾問題は結局米ソ中三頭間の権力関係と権力闘争によりて決定される－『民族と政治』208、10月1日

「アンケート 私にとって明治とはなんであったか 明治に生をうけた各界42氏が回答」『文芸春秋』50-15、11月10日

1973(昭和 48)年

1973年の国際政局と日本の将来『教育学術新聞』808、1月1日[対談：矢次保]

一九七三年の世界と日本－世界協調体制下で東風西風を任せんとす－『民族と政治』211、1月1日

田中首相の訪ソとわが領土国策－北方領土をめぐる日ソの国策は完全に相容れない、今日は首相訪ソの時機ではない－『民族と政治』218、8月1日

長沼裁判の違憲性と革命性『民族と政治』220、10月1日

1974(昭和 49)年

一九七四年の世界と日本－近代世界終り、新世界開幕 自由世界の劣勢、世界経済の改造－『民族と政治』224、2月1日

アラブ石油禁輸問題の国際政治的考察『外交時報』1113、2月10日

1975(昭和 50)年

国際政治と文明論よりみた世界の現状と将来『外交時報』1123、3月10日

「戦時議会史」を読んで『民族と政治』239、5月1日

「文明論」より見た世界の現状と将来『国士館大学政経論叢』22、24、7月25日、**1976年**6月25日[「近

代国際政治史』(原書房、1989年)収録]

1976(昭和 51)年

新太平洋ドクトリンを論評するソ連型大陸同盟とアメリカ型海洋協同との対決 両者の優劣、日本の運命は太平洋共同体ー『外交時報』1131、1月10日

革命に種々あること[随想]『季刊アカデミー』4、10月1日

1977(昭和 52)年

世界史上における日露関係の考察『外交時報』1145、6月10日

1978(昭和 53)年

「外交時報と私」『外交時報』1155、6月10日

4. 国会委員会議事録

行政協定と裁判管轄権について参考人として証言『第13回国会参議院外務委員会議事録 第11号』1952年3月12日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

再軍備問題と行政協定について参考人として証言『第15回国会参議院予算委員会議事録 第20号』1952年3月17日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

日本の外交問題について参考人として証言『第15回国会衆議院予算委員会議事録 第9号』1952年12月6日[『日本外交の再出発』、『全集』第5巻収録]

憲法調査会法案について公述人として証言『第24回国会衆議院内閣委員会公聴会議事録 第1号』1956年3月16日[『日本政治の再出発』、『全集』第6巻収録]